

## 目 次

1. 共生システム理工学類インターンシップの概要	2
2. 平成 19 年度インターンシップの実施経過	2
3. 平成 19 年度共生システム理工学類インターンシップ受け入れ事業体一覧/受け入れ事業体との連絡教員	3
4. 事後報告会	4
5. 平成 20 年度のスケジュール(案)	5
6. 参加学生のレポート	6
志賀隆寿(産業専攻 2 年):日東紡(株)福島工場グラスファイバー開発研究所	6
渡部洋輔(人間専攻 2 年):(株)NTT 東日本福島支店	8
安藤可奈美(産業専攻 2 年):福島製鋼(株)	10
佐久間勇行(産業専攻 2 年):福島製鋼(株)	13
豊原絵美子(人間専攻 2 年):福島県庁国際交流分野	16
渡部康実(環境専攻 3 年):福島県庁環境政策分野	19
新田真菜(産業専攻 2 年):福島県庁障がい者福祉分野	23
若色美幸(環境専攻 2 年):福島県庁商業まちづくり分野	26
鈴木佐知子(環境専攻 3 年):福島県庁農業振興分野	29
丸山 愛(環境専攻 3 年):福島市役所	32
山中崇志(産業専攻 2 年):日栄工業(株)福島工場	35
皆川絵梨(環境専攻 2 年):(財)福島県保健衛生協会	38
佐藤大地(人間専攻 2 年):応用地質(株)東北支社	41
山内ひかり(環境専攻 2 年):(株)福山コンサルタント東北事業部	44
東条聡子(環境専攻 3 年):福島市小鳥の森	47
鈴木範子(環境専攻 2 年):福島市小鳥の森	51
田中寿枝(環境専攻 3 年):いであ(株)東北支店	55
野尻裕貴(環境専攻 3 年):(株)キッツ長坂工場	59

## 1. 共生システム理工学類インターンシップの概要

インターンシップとは、大学に在籍したまま一定期間企業等の事業体で就業体験を行う授業である。実社会での就業体験を通じて社会の基本的なルールやマナーを習得するとともに、将来の職業に対する意識形成を図り、進路選択の支援を行うことを目的としている。インターンシップには、学生が自主的に行うものもあるが、ここで扱うのは大学の正課の授業として行うインターンシップである。インターンシップは自己デザイン領域のキャリア創造科目の1つで、選択必修・自由選択領域科目として扱われる。理工学類のインターンシップでは、早い段階での職業意識の醸成をはかるため、2年次での履修を標準としている。また、3年次での履修も可能である。

## 2. 平成19年度インターンシップの実施経過

年度始めにインターンシップに関するガイダンスを行った後、希望調査および面接を行い、就業体験先を決定した。次に、就業体験先事業体に対応した知識および社会人としてのマナーの習得を目的として事前実習を行った。また、より実効的な就業体験となるよう準備するため、就業事業体への事前訪問を行った。その上で、夏休み期間中に就業体験先事業体で1週間(1単位)から2週間(2単位)の就業体験を行った。なお、就業体験先事業体の実習プログラムが2週間を越える場合も実施可能とした。就業体験後には、レポートの提出を行い、報告会で履修者が体験報告を行った。これらに合格することにより単位認定が行われた。第2回目にあたる平成19年度は12事業体で18名の学生が就業体験を行った。

平成18(2006年)

12月20日(水) 全学インターンシップガイダンス(13:00～15:00)

平成19(2007年)

1月19日(金) インターンシップガイダンス開催学内掲示

3月末まで インターンシップ先事業体の開拓

4月上旬 インターンシップ受け入れ予定事業体の学内掲示

4月5日(木) 行経理3学類インターンシップ打合せ

4月11日(水) インターンシップガイダンス(13:00～14:00, 33名参加)

4月13日(金) インターンシップ希望調査締切

4月18日(水) 希望者の面接(13:00～16:00)

4月20日(金) インターンシップ先の発表(学内掲示)

4月23日(月)～26日(木) 履修登録

6月6日(水) 全学マナー講座 および 第1回事前学習(ガイダンス)

7月11日(水) 第2回事前学習(実施前の諸注意など)

8月～9月 インターンシップの実施

10月1日(月) レポート提出期限

10月10日(水) 事後報告会の開催

11月 報告書のとりまとめと印刷製本、成績評価

12月 報告書の配布

### 3. 平成19年度共生システム理工学類インターンシップ受け入れ事業体一覧(五十音順)

(株)NTT 東日本福島支店  
朝日システム(株)  
いであ(株)東北支店  
(株)インフォメーション・ネットワーク福島  
応用地質(株)東北支社  
(株)キタック(設計部門, 地質調査部門)  
(株)キッツ長坂工場  
(株)建設技術研究所 東北支社  
(株)江東微生物研究所  
(株)ダイユーエイト  
日栄工業(株)福島工場  
日東紡(株)福島工場グラスファイバー開発研究所  
日本パーオキサイト(株)郡山工場  
パシフィックコンサルタンツ(株)東北支社  
福島県庁(環境政策分野, 県産品振興分野, 国際交流分野, 雇用対策分野, 市町村行財政分野, 児童福祉分野, 児童福祉・母子保健分野, 障がい者福祉分野, 商業まちづくり分野, 人権政策分野, 新産業創出分野, 土木建設行政分野, 農業振興分野)  
福島コンピューターシステム(株)  
福島市小鳥の森  
福島市役所環境課  
(株)福島情報処理センター  
福島製鋼(株)  
(株)福島製作所  
(財)福島県保健衛生協会  
ふくしまフォレストエコライフ財団  
(株)福山コンサルタント東北事業部  
(株)復建技術コンサルタント  
三井共同建設コンサルタント(株)  
水の駅「ビュー福島潟」

#### 受け入れ事業体との連絡教員

齋藤登(総合教育センター), 木内豪, 杉森大助, 高貝慶隆(共生システム理工学類)

#### 4. 事後報告会

事後報告会は、10月10日（水）に約65名（内訳：事業体11名、学生（発表者18名含む）約35名、教職員約14名、委員と助手6名）の参加者を得て共通講義棟M-3教室で行われた。力が入ったプレゼンテーションと活発な質疑応答のため、30分ほど予定時間をオーバーしてしたが、全員が各自の体験を生き活きと報告した。報告会終了後に行われた懇談会では、事業体からの出席者に事業内容や仕事について積極的に聞きに行く学生の姿が見られた。

内容：

##### 第1部 発表会

15:30 専攻長挨拶，インターンシップの説明，協力事業体・連絡教員の紹介

15:50 インターンシップ報告（18名，それぞれ発表と質疑応答5分）

18:00 講評

##### 第2部 懇談会

18:05 学類長による簡単な挨拶の後に懇談・意見交換

18:30 閉会



第1部発表会の様子



第2部懇談会の様子

## 5. 平成 20 年度のスケジュール（予定）

平成 20 年度は下記のスケジュールで実施する予定である。

- 平成 20 年 3 月 インターンシップ先事業体の開拓
- 3 月末 インターンシップガイダンス開催および受け入れ予定事業体の学内掲示
- 4 月 9 日(水) インターンシップガイダンス
- 4 月 11 日(金) インターンシップ希望調査締切
- 4 月 16 日(水) 希望者の面接
- 4 月 21 日(月) インターンシップ先の発表(学内掲示)
- 4 月 22 日(火)～25(金) 履修登録
- 6 月～7 月 マナー講座 および 事前学習(2回)
- 8 月～9 月 インターンシップの実施
- 10 月初旬 レポート提出期限
- 10 月 学内事後報告会の開催
- 11 月～12 月 報告書のとりまとめと印刷・配布

# 日東紡(株) 福島第2工場 佐倉研究所

210610097 志賀隆寿(産業システム工学専攻2年)

## 【要旨】

日東紡福島第2工場にて、インターンシップの10日間を通して実験を主とした体験業務を行わせていただいた。今回、これから一般企業に就職を考える上で、企業を内面から知る有用な経験になると思い今回希望した。

今回のインターンシップではガラスクロスの表面処理実験ということで、無機物であるガラス繊維の布と有機物の樹脂との界面を接着する、界面活性剤の性能の比較の実験を行ったり、結果をまとめて報告書を作成しプレゼンで発表を行うといった流れで実習を行った。また、合間には工場の見学や加水分解の実験など様々な実験も行わせていただいたり、社会人からのアドバイスや意見などをいただくことができ実習内容、またそこから得た情報や知識など充実した研修にすることができた。

実習期間:平成19年8月16~8月29日

指導担当者:主任研究員 松本守正

実習月日	担当者	実習内容
8月16日(木)	松本	工場見学など
8月17日(金)	中村	ガラスクロスについて
8月20日(月)	中村	処利液調合
8月21日(火)	櫻井	樹脂成形物の作成
8月22日(水)	櫻井	樹脂成形物の作成
8月23日(木)	大内	強度測定
8月24日(金)	佐久間	強度測定
8月27日(月)	引野	観察
8月28日(火)	引野	レポート書き方
8月29日(水)	松本	プレゼン

## ①今回のインターンシップで実施したテーマ、課題

今回のインターンシップでは企業での研究職としての業務の経験を通して今後進路に役立てられる知識の収集を目的とした。特に理工系の学部である本学において、研究職は企業への就職の道としては有力なものの一つであると思われる。しかしながら、その業務形態がこれまでの自分にとってどのようなものであるかをきちんと把握できていたかという大きな疑問があった。そこで今回インターンシップはそういったことを学ぶ良い機会であると考え、今回の活動の主でもあるガラスクロスの表面処理の実験や、訪問先での業務の見学などを通して職について理解を深めることを目標とした。

## ②上記のテーマ、課題に対してどのような成果を得たか

今回実習では、実験、測定、分析、レポートの作成、発表といった流れで研修をさせて頂いたが、特にレポートの作成などでは、大学の実験レポートとは異なり、企業で普段使われるいかに相手にわかりやすく伝えるかを念頭においたレポートづくりを学ばせて頂き、大学と企業とでとらえている研究や実験の差について実感させられた。また、最後の発表のアドバイスを受ける際に企業ではプレゼンの能力の必要性を強く認識させられたほか、多くの時間を研究者の間近で過ごさせていただくことで、日々どのような業務をこなしているのかその一端をうかがい知ることができた。

## ③実施したテーマ、課題の他に今回のインターンシップで発見したこと、得たこと

些細なことではあるが、その分野の産業としては当たり前となっているような知識や習慣、社会の構造や社会人として知っておいてほしいことなど、受け入れ先の方との対話で知ることのできた情報には非常に参考になったり、興味を引くような話題が多くあった。

## ④今回のインターンシップは今後の学習や大学生活および今後の進路の選定を進める上で、どのような効果・影響を与えたか

今回の実習を通じてやはり今の知識量では実用に全く値しないということがつくづく実感した。しかし大学で扱う知識を利用したり、その応用はいたるところで利用されていると実感する場面が多々あり、大学で学ぶ勉強の必要性を強く認識した。実際一部教科書を実習先に持ち込んで確認しながらレポートなどを作成する部分もあったので、やはり普通の大学での学習も単位を取ればいいのかではなく身につけていなければ意味がないのだと痛感した。しかし、同時にどういった現場でどのような知識が使われているか、板書の世界だけでなく現場でそれを実感することでより学びにたいする意欲が高まったのも事実である。今後そういったことも踏まえて、大学での学習はより真摯に取り組んでいきたい。

## ⑤その他実習中に気づいたこと、感じたこと

ISO9000 シリーズや 14000 シリーズなどを取得していることもあり工場や研究所の中は非常に整理整頓や分別が行き届いており、非常にすっきりとした内装になっていた。また、安全に関する規則や掲示が至るところに散りばめられており、実習中再三危険に気をつけ安全に作業を行うように指導をうけた。安全に対して非常に高い意識を持っているということを強く実感させられたのが今回の研修で印象的であった。

## ⑥次年度以降インターンシップに参加する学生に伝えたいこと

受け入れ先の担当の方の話には「一言で研究といっても大学での研究と企業での研究は異なりそのギャップにはじめはなじむことができなかったのですが、自分の大学時代にもインターンシップのような制度があれば参加したかった。」というものがありました。やはり就職をより実感的なイメージとしてとらえることのできる良い機会なので是非インターンシップには参加してみてください。決して無駄な経験にはならないはずです。

# NTT 東日本 福島

210610188 渡部洋輔(人間支援システム専攻2年)

## 【要旨】

この二週間における職業体験学習では、やはり日本最大の通信事業者ということもあり、しっかりとした内容で受けることができた。

始めにオリエンテーションとして会社の概要や現在主力で行っている事業の説明を受け、次に施設内の案内で関係する職員でしか入れないような大規模な通信設備を見学させてもらった。翌日以降では実際のLAN移設工事の見学やその仕様の説明を受け、またある条件下の元設置するLAN設備の機器選定の実習、通産省が提示するBフレッツ光ブロードバンドの目的などの説明を受けた。

体験学習における日程の作成は人事と担当者の調整の上で行っていたので、最初に設定した日程とはやや違うものだったが、こちらとしては特に準備するものはなかったので大きな問題にはならなかった。

実習期間:平成19年8月20日(月)~8月31日(金)

指導担当者:主査 小島佳恵

実習月日(曜日)	担当者等	実習内容
8月20日	今野	オリエンテーション、施設見学
8月21日	相馬	LAN移設工事見学
8月22日	相馬	LAN移設工事見学
8月23日	相馬	光ケーブル配線工事見学
8月24日	楠本	医療事務システム
8月27日	楠本	医療事務システム
8月28日	折田	光ブロードバンドの普及
8月29日	加藤	電子計算機システム
8月30日	相馬	キャンパスLAN提案仕様検討
8月31日	小島	反省会

## ①今回のインターンシップで実施したテーマ、課題

テーマ: SE業務実習

課題: オリエンテーション、とう道等の施設見学、LAN移設工事見学、事務システムの構築、光ブロードバンドの普及について、キャンパスLANの保守管理の見学、ネットワークの仕様機器選定、反省会

## ②上記のテーマ、課題に対してどのような成果を得たか

SE業務実習

実際に仕事として行われているSE業務を体験することができたことが一番の収穫



だった。今まで勉強したそうした業務の知識には、現場というケースバイケースであり、実際に相手先とのやり取りや書類の流れなどを知ることができなかったが、今回のインターシップでは、そうした部分が実体験として身に付いたので、とてもよかった。

#### 課題

とう道等の施設見学：ビル内の施設を見学する。

LAN 移設工事見学：既設のラックを撤去し、新施設に改めてすえつけ、さらに設備への配線を行う工事を見学。

事務システムの構築：実際に OS 段階からインストールを行い、システムを体験する。

光ブロードバンドの普及について：経済産業省が推進する光ブロードバンド普及率 100%に向けた取り組みの説明を受け、その会議にも立会った。

キャンパス LAN の保守管理の見学：情報処理センターIPC4 の保守作業の見学。

ネットワークの仕様機器選定：ネットワークの仕様書と実際に使われているパンフレットから必要な機器とその金額を算出する。

反省会：10日の実習の締めくくりとして、人事の担当者、実習の担当者のうち出席できる人で集まり、実習の内容とそれから学んだことの確認を行った。

**③実施したテーマ、課題の他に今回のインターンシップで発見したこと、得たこと**  
インターンシップの目的として実際の会社組織の雰囲気も体験することも含んでいたが、やはり実際に内側から見ていると、コミュニケーションが会社内でも取引先との折衝にもとても必要だということが実感できた。

**④今回のインターンシップは今後の学習や大学生活および今後の進路の選定を進める上で、どのような効果・影響を与えたか**

自分のやりたいことに一番近いものインターンシップに選んだので、基本的には変化はない。しかし、就職に向けての会社選びなどにはずいぶんとよい参考になった。今後もこうした機会があれば積極的に参加していきたいと思う。

**⑤その他実習中に気づいたこと、感じたこと**

出発前に慌てると忘れ物をしてしまうことがある。私の場合はただ、スリッパを忘れただけだから問題はなかったが、やはり前日に準備しておくのが一番良い。

**⑥次年度以降インターンシップに参加する学生に伝えたいこと**

実習先がビルなどの場合、初めていくときは見つけるのは意外に難しいので、十分な余裕を持って出発したほうが良い。15分の余裕を持ったが、道に迷い、結局5分遅れになってしまった。ただし、同じように間違える人も多いようで、そのときは特に問題はなかった。また、その際は必ず電話をするなどすれば、間違いはないと思われる。

# 福島製鋼株式会社

210610013 安藤可奈美(産業システム工学専攻2学年)

## 【要旨】

1日目、新入社員とともに工場での安全教育、オリエンテーションなどを受けました。2日目から3日目にかけて鋳物とは何なのかを、講義によって学ぶことができました。4、5日目、経営工学について学び、5日目の午後、工場を見学しました。6日目はジルボン工場にて講義と工場見学をし、7日目は実際に鋳物の灰皿を作成するというすばらしい機会を設けてくださいました。8、9日目は最終確認、まとめを行い、不明点を再調査しました。10日目(最終日)は朝から社長と懇談し、会食いたしました。また、インターンシップ提出資料を完成させました。今回のインターンシップで、多くのことを学び、また多くを経験いたしました。とても有意義なインターンシップでした。

実習期間:平成19年9月3日(月)~9月14日(金)

指導担当者:鋳造管理グループ長 菊池喜光

実習月日(曜日)	担当係(者)等	実習内容
9月3日(月)	総務人事部 菊池主査	オリエンテーション、安全教育、 社長との懇談、職場配属、工場見学
9月4日(火)	斉藤主管補 高橋主任補	造詣ラインの問題点の顕在化、紙の分別、 溶解、造型工程についての講義
9月5日(水)	斉藤主管補 高橋主任補	調査、仕上げ工程についての講義、不明店の確認お よびまとめ
9月6日(木)	馬場専務 菊池主査	生産計画について、トヨタ生産方式について
9月7日(金)	斉藤主管補 高橋主任補	QC手法について、工場見学
9月10日(月)	矢部部長 大橋課長	ジルボンの製造方法や主な用途について、ジルボン 工場見学
9月11日(火)	宍戸G長 高橋主任補	灰皿の製造体験、まとめ
9月12日(水)	斉藤主管補 高橋主任補	まとめ、発表資料の作成、不明点の再調査
9月13日(木)	斉藤主管補 高橋主任補	発表資料の作成、提出資料のまとめ
9月14日(金)	宍戸G長 斉藤主任補	社長との懇談、提出資料のまとめ、会食

### ①今回のインターンシップで実施したテーマ、課題

今回のインターンシップでの私のテーマは、社会というもの、つまり、わたしが将来就職したいと思っている一般企業とはどのようなものかを実際に働く人を見て、また自分で経験して知るといことが大きなテーマの一つでした。そして、ホームページを見たときに「ジルボン」と言う製品や、自動車部品も作っているという福島製鋼に興味を持ち、それらを知りたい、見てみたいということがわたしのテーマでした。

### ②上述のテーマ、課題に対してどのような成果を得たか

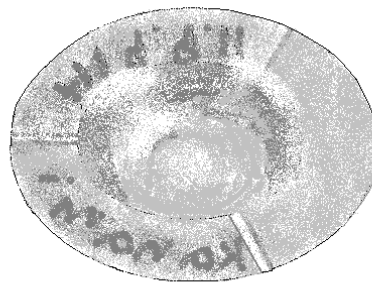
今回のインターンシップでは「今日やることは今日やり、明日に回さない」ということを学びました。私はこのことを念頭においてこのたびのインターンシップを行っていたのですが、これは、とても簡単なことのように実は、とても難しいことでした。

学んだこと、教えていただいたことなどの復習を今日やろうと思ひ帰宅するのですが、インターンシップのなれない生活の疲れか、どうしても帰宅すると明日に回したくなりません。むしろ、帰宅しそのままいつの間にか寝てしまうというのが私の日常でした。そしてあわてて次の日に復習すると、忘れてしまっていたり、きっと昨日だったらもっと短時間でできたのではないかと思うほど時間がかかったりしました。やらなければならないのですが、どうしてもできない、これができたのは、結局ほんの数日だけでした。やはり、まだまだ自分は甘いと思いました。それを含め、社員の皆様のさまざまなお話を聞き、驚いたように、ほんとうに社会とは厳しいものだということを知り、これでは社会でやっていけないと実感し、まだまだ完全に実行は難しいですが改心し、努力していこうという気持ちになりました。

そして、ジルボンについてもとても詳しく丁寧に教えてくださいました。科学など、技術の発展に伴いこれからさらに重要となっていくジルボンの意外な用途や、意外と身近にあるジルボンの重要性などとても驚きました。

### ③実施したテーマ、課題の他に今回のインターンシップで発見したこと、得たこと

今回インターンシップでテーマ以外に学んだことは、鑄造、つまり、ものづくりや管理することの楽しさや苦勞です。多くの複雑な作業が組み合わさって管理され物は作られている、それを目で見て体感するととてもよい機会でした。まだまだ実際に働いている方々ほどはわかりませんが、私達は実際に灰皿を作る機会をいただき、学んだだけ



作成した灰皿

ではわからないさまざまなことを体験することができました。思った以上に道具や砂は重く、また工場や鉄は暑いものでした。はじめは楽しさだけだったのですが、作業をしているうちに苦勞がたくさんあり、うまくできなかつたりとても疲れてきたりと、これは「ものづくり」なんだと実感いたしました。また、その苦勞以上にあったのは、楽しさと、興味、感動でした。どうなるんだろう、すごいなあ、不思議だなあ、など思いながら灰皿作

りを行い、実際に開梓したときの喜びとは、本当にすごいものでした。作品に仕上げなどを行い、完成品を見たときにはなんともいえない感動が心からこみ上げてきました。このような機会を与えてくださりまして、本当に心から感謝いたしております。

#### ④今回のインターンシップは今後の学習や大学生活および今後の進路の選定を進める上で、どのような効果・影響を与えたか

今回のインターンシップでは、社会の厳しさや、会社というものなど多くのことを学びました。そして、仕事は大変だが、みんなとても明るく笑顔で気持ちよく働ける会社、苦労はあって大変かもしれないけれど、楽しくやりがいのある職場で働きたいと思いました。そして、インターンシップ中に、大学で学んだことがそのまま、また発展的な内容として出てくることがあり、やはり大学で学んでいることは社会での基本となるようなことなのだ実感したのでますます大学で学んだことをしっかり身につけてはと思いました。また、自分の無知さにあまりにも驚いたので、教養を身につけるべくこれからは大学の授業だけではなく、社会問題や政治、経済などについても学んで生き、さらに知識を深め、教養を身につけていこうと思いました。

#### ⑤その他、実習期間中に気付いたこと、感じたこと

社長との対談で、「挨拶」や「外国語」、「教養」の重要性や、人づくりとは良い会社づくりであるということをお聞きしたのですが、そのことをインターンシップ期間中に大変実感いたしました。なぜなら、今回のインターンシップで一番感じたことは、ここ福島製鋼様がとてもよい雰囲気を持った会社であるということだからです。

はじめに驚いたこと、それは、まったく知らない方なのに元気に笑顔で挨拶をしてくださるということです。毎日毎日会社に来ると、たくさん挨拶を交わします。挨拶とは、とても不思議で気持ちのいいもので、挨拶を交わすたびにインターンシップという中での疲れも吹き飛んでいきました。また、このインターンシップがとてもよいものになるよう、忙しいお仕事の中にもかかわらず、社員の皆様がいやな顔もせず、大変親切に一つ一つの物事を対応してくださいました。そして、社員の皆様も、とても仲が良く見え、昼食時なども職場は違うはずなのに、いろいろな方がいろいろな方とお話しをしたり、言葉を掛け合ったりしておりました。

これらのことより、本当に素晴らしい会社というものは、誰かの会社ではなく、みんなの会社と社員一人ひとりが思っていることだと感じました。

#### ⑥次年度以降インターンシップに参加する学生に伝えたいこと

インターンシップに参加して、わたしは今まで知らなかったこと、自分に足りないこと、社会についてなど多くのことを学びました。インターンシップは必ず得られるものがあるので、自分の人生の参考となる良い機会であると思います。

# 福島製鋼株式会社

210610080 佐久間勇行(産業システム工学専攻2年)

## 【要旨】

私は福島製鋼株式会社に伺いました。一日目は、工場は危険と隣り合わせなので新人社員の方と一緒に環境教育、安全の教育を受けました。また、社長と懇談し貴重なアドバイスを頂きました。その後、私は技術グループに配属され、グループの下で2、3日目は鋳物についての講義と工場見学、4、5日目は専務、製造管理グループ長に生産計画について、トヨタ生産方式、TPM、品質管理についての講義を受けました。6日目はジルボンの工場でジルボンができるまでを学びました。7日目は、実際に鋳物造りの工程を体験し記念に灰皿を造りました。残り3日間は学んだ内容について追加調査しレポートにまとめました。

実習期間:平成19年9月3日(月)～9月14日(金)

指導担当者:技術員グループ長 宍戸 修

実習月日(曜日)	担当係(者)等	実習内容
9月3日(月)	総務人事部 菊池主査	オリエンテーション、安全教育、 社長との懇談、職場配属、工場見学
9月4日(火)	斉藤主管補 高橋主任補	造詣ラインの問題点の顕在化、紙の分別、 溶解、造型工程についての講義
9月5日(水)	斉藤主管補 高橋主任補	調査、仕上げ工程についての講義、 不明店の確認およびまとめ
9月6日(木)	馬場専務 菊池主査	生産計画について、トヨタ生産方式について
9月7日(金)	斉藤主管補 高橋主任補	QC手法について、工場見学
9月10日(月)	矢部部長 大橋課長	ジルボンの製造方法や主な用途について、 ジルボン工場見学
9月11日(火)	宍戸G長 高橋主任補	灰皿の製造体験、まとめ
9月12日(水)	斉藤主管補 高橋主任補	まとめ、発表資料の作成、不明点の再調査
9月13日(木)	斉藤主管補 高橋主任補	発表資料の作成、提出資料のまとめ
9月14日(金)	宍戸G長 斉藤主任補	社長との懇談、提出資料のまとめ、会食

### ①今回のインターンシップで実施したテーマ、課題

今回のインターンシップでは二つのテーマに設定し望みました。一つ目は会社や工場について具体的な仕組みを行っているのか知らなかったのもので、体験を通して業務内容と現場の雰囲気を感じることに。二つ目として、自分が興味を抱いている生産管理・生産システムなどはどのように活用されているかを知り、自分が身につける能力や知識について探ることです。

### ②上記のテーマ、課題に対してどのような成果を得たか

私が福島製鋼に実習に訪れて、一番初めに感じたのは社員の方同士がすごくフレンドリーなことです。技術員グループの方と一緒に現場をまわっている時、頻りに現場の方が話しかけてきてコミュニケーションがとれているのだと思いました。会社に触れたことのない自分では会社は静かで黙々と書類を作成しているイメージがあったのですごく意外に感じました。また、会社の仕組みとして仕事ってどんなふうに見えるのかわからなかったのですが、仕事は自分で率先して行うものなのだとわかりました。もちろん定期的に行わなくてはいけない仕事や上司の与えられて行う仕事もありますが、会議や納期に合わせて自分で仕事を管理して行わなくていけないことがわかり時間に対してのきびしさが学生との大きな違いでした。

二つ目のテーマとして生産管理に関しては講義をしていただきました。大学では抽象的で想像しにくかったのですが、わかりやすい例や現場で実物を見ることができたので理解をふかめることができました。その後に工場を周ると管理図やかんばんなどがあり生産管理に関するものがいたるところで見つけることができました。

### ③実施したテーマ、課題の他に今回のインターンシップで発見したこと、得たこと

テーマに設定したもの以外にも鋳物の知識や生産計画の知識など本当はたくさんの知識を学びました。しかし、それ以上に勉強になったことは仕事に対しての精神や姿勢でした。馬場専務が何度もおっしゃっていた言葉で「その日にやるべき仕事は次の日に回すな。」というのが特に心に残っています。やるべき仕事をこなすためにだらだら残業をするのではなく、時間内に終わらせるために効率良く仕事をこなさなくてはいけないのだと感じました。また、私がお世話になった技術員グループの宍戸G長の仕事ぶりも本当に感心しました。30歳の若さで仕事について、どんなことを聞いてもわかりやすく説明できるし、会議の場や工場内でいつも積極的に仕事をしていて、こんなふうには仕事をするのだと参考になりました。自分もこんな風に仕事できるようになりたいです。

### ④今回のインターンシップは今後の学習や大学生活および今後の進路の選定を進める上で、どのような効果・影響を与えたか

生産業という業種を体験しものづくりおもしろさを感じました。いままでは科学や工学が好きで大学に入った私は視野が技術や製品の開発ばかりに目がいていましたが、開発してから工場生産するまでや品質を管理することもすごく重要でおもしろさを感じました。今後の進路のひとつとして考えるようになりました。

また、社長と懇談した際に大学生生活の時に何をすれば良いかについておっしゃっていたことが心に残りました。会社に入れば本当に専門的なことはまた深く勉強するようになるから、大学時代には一般教養も含めいろいろな知識を学ぶことと英語と第二外国語を勉強すること大切だということでした。私は専門以外の科目をおろそかにしていたことがあったので反省し、いろいろなことについて積極的に学んでいこうと思いました。

#### ⑤その他実習中に気づいたこと、感じたこと

実習中、様々な部門の方に教えていただく中で皆さん個人ごとの学ぶためのファイルを作っていて資料をまとめていたのが印象に残りました。私と同じくらい年齢の方でも自分なりのノートを作って金属の組成についてまとめてありました。企業に入ってから学ばなくていけないことはたくさんあって一生勉強していかなくてとは感じました。

#### ⑥次年度以降インターンシップに参加する学生に伝えたいこと

二週間の実習を経験して学ぶべきことは上の文では、本当に語りつくせないほどたくさんありました。自分の持っていったメモ帳がメモ書きで真っ黒になっているぐらい、大きなことから細かな知識まで学ぶことは多いです。私自身、この報告書を書く中で書きたいことがたくさんあり、ひとつのことでたくさん学んだので書ききれず納得のいかないところが多々あります。

朝も早く二週間は体力的にもきついですが、インターンシップに参加して後悔は絶対にしません。自分で体験してみないとわからないことがほとんどです興味がある人はぜひ参加してみることをおすすめします。



## 福島県庁県民環境総務領域国際交流グループ

210610132 豊原 絵美子(人間支援システム専攻2年)

### 【要旨】

福島県庁県民環境総務領域国際交流グループでは8月20日～9月3日の土を除く11日間実習を行いました。主な実習内容はJETプログラムという語学指導等を行う外国人青年招致事業についての手伝いをさせていただきました。前半はアンケート集計、ダイレクトリー作成、後半は民間や自治体との打ち合わせに参加しました。

そこではいろんな国の人たちと出会い、異文化交流に触れることもできました。

職場の雰囲気はとても良く、国際交流グループという名のおり、ニュージーランド、中国出身の人も働いており英語でのやりとりがあって職場体験ならではの充実した経験になりました。



職場の皆さん

実習期間:平成19年8月20日(月)～9

月3日(月)

指導担当者:国際交流グループ主査 早

川 勝久

実習月日(曜日)	担当係(者)等	実習内容
8月20日(月)	平山・早川	・国際交流行政の概要説明 ・実習内容の確認
8月21日(火)	早川	・JETアンケート集計 ・国際交流会訪問
8月22日(水)	早川	・JETアンケート集計
8月23日(木)	早川	・JETダイレクトリー作成 ・JET日本語研修会の打ち合わせ参加
8月24日(金)	早川	・JET日本語研修会の準備、受付、早川さんの補助
8月26日(日)	早川	・JET日本語研修会の手伝い
8月27日(月)	早川	・ニュージーランド交流事業の事前打ち合わせ (長沼高校、光南高校、湯本中学校訪問)
8月28日(火)	早川	・ニュージーランド交流事業の事前打ち合わせ (郡山第四中学校訪問)
8月29日(水)	早川	・JETダイレクトリー作成
8月30日(木)	早川	・JETダイレクトリー作成
9月3日(月)	久保木・早川	・レポート課題の作成 (県庁へ提出用)



### ① 今回のインターンシップで実施したテーマ、課題

- ・ 職場での雰囲気を感じ、どのような仕事内容をしているのかをみてくること。
- ・ 国際交流における行政の役割について考えること。

### ② 上記のテーマ、課題に対してどのような成果を得たか

毎朝 8 時 30 分から 15 分程度の朝礼をやっていました。一日のスケジュール確認、誰がどこに何時に出かけるか、出かける理由、また 2 分くらいのスピーチという内容でした。徹底したスケジュール管理、組織として仕事をしているという自覚を高めるため行っていると聞きました。毎朝の朝礼をやることでみんなが意識しチームワークを高めているのだなと思いました。仕事内容の例として国際施策基本計画・交流会の進行管理、語学指導等を行う外国人青年招致事業に関すること、英語の通訳・翻訳に関すること、外国賓客、国際交流・協力団体等との調整があげられます。このことから国際交流グループは、国と民間・企業との間の架け橋的な役割を担っているとわかりました。権限や財源を公平に確保し、現場の声をきき取りまとめうまく解決案をうみだしていくのが行政の役割ではないかと思いました。

### ③ 実施したテーマ、課題の他に今回のインターンシップで発見したこと、得たこと

国際交流グループの仕事に関して大切なことはコミュニケーション(人間関係)だと教わりました。これはどこに行っても大切なことかもしれませんが、この職場は年代、国、文化が違う人と一緒に仕事をしています。組織として仕事をしているうえで気をつけなくてはならないことがたくさんあるのではないかと感じました。例えば言葉はもちろん意思疎通やチームワーク、異文化間との相互理解があげられます。ピアスを私たち日本人は職場で身につけることはしません。悪いことをしているわけではありませんが、ピアスをつけているというだけで偏見的な見方をされることがしばしばあります。これは身につけてはいけないという決まりではなく日本人の慣習なのですが、他の国の人たちは理解できないときがあります。耳、おへそ、舌などにつけて事業に参加する外国人がいて注意を受けていました。これは文化の違いであり、お互いに理解していかなければならないことです。このように注意しながらも人と人とのつながりをととても大切にし、信頼関係を気づきあげていきながら仕事に取り組んでいる様子が伺えました。



職場の様子

**④ 今回のインターンシップは今後の学習や大学生活および今後の進路の選定を進める上で、どのような効果・影響を与えたか**

大学生のアルバイト経験とはまったく違う社会形成を垣間見てきた感じがしました。現場の雰囲気をあじわえたことで職場のイメージがしやすく、また、仕事ひとつの責任の重要性、確認・許可の厳密さを学びました。最初は誰も知らない職場に飛び込むことに不安はありましたが、このようなよい効果をあげることができ何事もチャレンジだなど思いました。

**⑤ その他実習中に気づいたこと、感じたこと**

この職場は英語の会話力はもちろんその他にアンケート集計などで英語の筆記体を解読するという作業がありました。アメリカやカナダ出身者の字が読みにくいものがあり解読するのにとても時間がかかり、もっと筆記体を勉強していけばよかったなと思いました。

**⑥ 次年度以降インターンシップに参加する学生に伝えたいこと**

大学生活は待っているだけでは何も得られないと思うので、まず行動です。社会経験豊富な先輩方から聞くお話はとても興味深いものでした。

# 福島県庁循環型社会推進グループ

21051019 渡部康実(環境システムマネジメント専攻3年)

## 【要旨】

今回私がお世話になったのは福島県の生活環境部環境共生領域の循環型社会推進グループで、生活環境部内の組織や当グループの活動を事業計画書に沿って教えていただきました。また福島県が目指す「もったいない」が生きている社会づくりへの取り組みの一環として、もったいないの50の実践をテーマに絵画の募集をし、その絵画の仕分け作業、データベース作成を行いました。さらに9月19日に郡山市のビッグパレットふくしまで開催されたエコ・リサイクル製品の展示・プレゼンテーション会の会場準備やスタッフ業務も務めさせていただきました。

また、同じ環境共生領域の環境活動推進グループ、環境評価景観グループ、自然保護グループの各グループが、それぞれのグループの活動内容を説明してくださいました。

実習期間:平成19年 9月10日(月)~9月21日(金)

指導担当責任者:主任主査 東間 孝文

実習月日(曜日)	担当グループ	実習内容
9月10日(月)	循環型社会	生活環境部及び環境共生領域の業務概要 もったいない50についての絵画作品仕分け
9月11日(火)	同上	福島県循環型社会形成推進計画の説明 もったいない50についての絵画作品仕分け
9月12日(水)	自然保護	尾瀬国立公園と鳥獣保護についての説明 福島県梁川地区の狩猟者データベースの作成
9月13日(木)	環境活動	地球温暖化と環境教育における福島県の取り組みの説明 もったいない50についての絵画作品仕分け
9月14日(金)	景観推進 環境影響評価	景観の捉え方と福島県庁周辺の景観 最終処分場「飯坂グリーンサイト」への訪問
9月18日(火)	循環型社会	もったいない50についての絵画作品仕分け エコリサイクル製品展示会の会場準備
9月19日(水)	同上	うつくしま、エコ・リサイクル製品建設新技術 工法の発表会におけるスタッフ業務
9月20日(木)	同上	もったいない50についての絵画作品データベース作成
9月21日(金)	同上	同上

### ①今回のインターンシップで実施したテーマ、課題

私は就職先の一つに公務員という選択肢があるのですが、実際に公務員がどのような仕事を行っているのかと問われるとほとんど答えられないというのが事実でした。そこで、実際に福島県庁にインターンシップとして参加させていただき、公務員とはどのようなものか、どのような雰囲気の中でどのような活動をしているのかを肌で感じてくるということを自分の課題としました。

### ②上記のテーマ、課題に対してどのような成果を得たか

9日間の実習を通して一番強く感じたことは、お世話になった循環型社会推進グループの業務はほとんど事務的な仕事だったということです。それは一見理系で勉強することが役に立たないという風にもとらえられますが、そうではなくて理系で勉強したことは基礎知識として備えた上で人との交渉なり施策を決定するようなある意味文系的な仕事をしているということです。この9日間で私の目に映ったのは、職員の方々がフィールドに出てサンプルを採取したり実験室で実験をしたりするのではなくて、頻繁に電話を用いて様々な業者と連絡を取り新たな活動を生み出していくいわゆる福島の環境施策の推進・まとめ役となって頑張っている姿でした。その結果、理系の仕事はフィールドと実験室だけと思っていた私にとって新しい形態の仕事の方向性が見つかりました。

### ③実施したテーマ、課題の他に今回のインターンシップで発見したこと、得たこと

このインターンシップを通じて新たに得たことは、経済を考える重要性です。例えば循環型社会の形成を考えた時に思いつくことはたくさんあるかもしれませんが、特にリサイクルについて考えます。さらにここでは、会社規模のリサイクルについて取り上げます。

確かに3Rにも含まれているようにリサイクルは地球の資源を守る上で重要な役割を果たしますが、そこには経済性という障壁が存在します。仮にある製品をリサイクルして別の製品を作ろうとしたときに、リサイクルする際の過程つまり新たなエネルギーを使って物質を状態変化させそれを原材料として使用するのが安く済むのか、または新しい原材料から製品を作るのが安く済むのかという問題があります。次にそのリサイクルした製品を作ったと仮定します。すると結局はその製品を誰かに売らなければリサイクル製品を作っても損をするだけになってしまいます。ここで問題なのは、結局売り手と買い手の関係が成立しなければリサイクル製品を作っても無駄になってしまうということなのです。このことから会社規模でリサイクル製品を開発しようとしたときには経済性、さらには有用性を考える必要があるということが、職員の方々の説明や9月19日に郡山市のビッグパレットふくしまで開催されたエコ・リサイクル製品の展示・発表会を通じて強く感じられました。

また今回の福島県庁でのインターンシップでは受入所属が循環型社会推進グループになっていますが、同じ環境共生領域の他の3つのグループもそれぞれの活動内容を説明して

くださったので勉強になりました。

初めに、環境活動推進グループでは地球温暖化のメカニズムの説明の後、その原因が私たちの日常生活や事業活動であることに注目し、そこからこの問題を解決するためには我々人間が変わらなくてはならない、そのためには環境に関する諸問題を気づいて頂き、解決策を考え、行動へと導く環境教育が必要であるということを教えていただきました。また福島県ではその環境教育の一環としてせせらぎスクール等を初め、指導者の養成や家庭の支援のためのイベントを開催していること、また県が福島議定書を作成し小・中・高・養護学校などに節電や節水への協力をお願いしていることがわかりました。

次に、自然保護グループでは尾瀬国立公園と福島の狩猟について教わりました。尾瀬国立公園では日本最大の高層湿原があることだけでなく、道路や発電などの開発から尾瀬の自然を守った日本の自然保護運動の原点として有名であることがわかりました。その自然保護運動は今でも続いており、大気環境を考えてマイカー規制をしシャトルバスを使用して排気ガスの量を制限していること、足についた土や泥を落としてもらうことによる外来性の種の進入を防ぐこと、トイレはお金を払うチップ制で紙を使わないようにウォシュレットタイプであること、極めつけは二本の歩道が設置されていてその歩道以外は基本的に歩いていけないことになっているなど、他にも様々なルールを設けて自然環境を保護していることがわかりました。

福島の狩猟では、人間の生活環境と農林水産業と鳥獣の保護においては適正な狩猟が必要であり、特に福島市では猿による農業被害が深刻であることなどを教わりました。また近年では狩猟者の高齢化が進んでいるため、若い狩猟者が必要とされているという課題もあることがわかりました。

最後に環境評価景観グループでは、景観を捉える上で視点、視対象、視点と視対象の関係性という「景観三点セット」の概念があり、視点である人間が見たいもの（視対象）を見れるための周辺の環境（関係性）がどのようにあれば良いのかという概念で景観を捉えていることがわかりました。景観は美しく風格のある国土の形成、豊かな生活環境の創造、自然・歴史・文化等と人々の生活、経済活動、地域固有の特性等を維持する上で必要なものであることから重要視されています。福島県では県独自の条例を設け、特に裏磐梯・猪苗代湖周辺を景観形成重点地域に指定しており、野立て看板の撤去を行ったり、セブンイレブンや郵便ポストの赤色などをはじめとする目立つ色を、目立たない茶色系の色に制限していることなどを行っていることを教えていただきました。

#### ④今回のインターンシップは今後の学習や大学生活および今後の進路の選定を進める上で、どのような効果・影響を与えたか

県庁がどのような活動をしているか全くわからなかった時に比べて、会社の雰囲気や大まかな仕事内容などがわかり自分なりに福島県庁とはどういうものかを捉えることができました。この経験は私の将来の職業選択において参考になると思うし、大学での

日ごろの勉強が社会人の基礎知識として必要であることが改めて強く感じられたのでより学習に励むことができると思いました。

#### ⑤その他実習中に気づいたこと、感じたこと

私は初日に県庁に行って驚いたことがいくつもありました。まず一つ目に会社が始まる 8 時 30 分までや昼休みの 12 時から 12 時 45 分の間は部屋の電気が点灯しないことです。二つ目はエアコンがほぼ作動しないこと。三つ目は県庁職員専用の駐車場はなく、大抵の人が電車や自転車、徒歩で通勤し、車で通う人は個人個人で近くの駐車場を借りることにしていることです。最後に紙や封筒を大切に使うために、それら専用の分別ボックスが設置され、紙は両面を印刷するまで使われたり、県庁内での書類の受け渡しでは一度使われた封筒をもう一度利用しているなどの徹底振りでした。これらは県庁が ISO14001 を採択しており環境負荷の低減のためにおこなっていることがわかりました。



#### ⑥次年度以降インターンシップに参加する学生に伝えたいこと

将来の就職先として福島県庁を考えている方は、このインターンシップに参加することをお勧めします。やはり本やインターネットで県庁の仕事などを調べるのも良いのですが、実際に一緒に働かせて頂くことも参考になると感じたからです。それと伴にいかに普段の大学での学習が生きてくるかも実感できるので、勉強意欲が高まるし、公務員講座を受けている私にとってモチベーションが高まるのが感じられました。他のインターンシップ先でも得られることはたくさんあると思うので時間のある夏休みにインターンシップに参加することは自分にとって必ずプラスになると思います。ぜひ挑戦してみてください！

## 福島県庁障がい者福祉分野

210610141 新田 真菜（産業システム工学専攻2年）

### 【要旨】

私は、県庁の障がい者支援グループにて、10日間就業体験をさせていただいた。内容としては、施設の訪問、研修会への参加、データ整理、障がいに関する様々な計画・プログラム等の説明を受ける、などである。

私は、漠然としてではあるが、福祉機器や人間工学というものに興味を持っていたので、今後の大学生活や就職活動において役立てたいと思い、就業体験希望した。今回このような体験をして、自分が興味のある分野だけでなく、社会人としての生活も経験することができ、大変勉強になった。

実習期間：平成19年9月3日（月）～9月14日（金）

指導担当責任者：副主幹 菅野 昭子

実習月日（曜日）	担当係（者）等	実習内容
9月3日（月）	影山さん	障がい者支援グループの業務説明
9月4日（火）	新田さん	施設訪問
9月5日（水）	影山さん	午前：施設福祉の現状と課題 午後：施設訪問
9月6日（木）	渡辺さん	相談支援従事者養成研修
9月7日（金）	渡辺さん	相談支援従事者養成研修
9月10日（月）	星さん	午前：第2次福島県障がい者福祉計画 午後：データ整理
9月11日（火）	星さん	午前：福島県障がい福祉計画について 午後：データ整理
9月12日（水）	三瓶さん	午前：障がい者地域生活移行促進プログラム 午後：レポート作成
9月13日（木）	新田さん	レポート作成
9月14日（金）	新田さん	レポート作成

### ①今回のインターンシップで実施したテーマ、課題

テーマ：就業体験を行うことで、今後の大学生活に必要なこと、更には自分の進学、就職について考える機会にする。

課題：今後の障がい福祉行政のあり方について、県庁の業務を通して学ぶ。

### ②上記のテーマ、課題に対してどのような成果を得たか

テーマに対しては、実際に職場の方々とは話す機会があったので、進学・就職について、大学生活について、アドバイスをいただくことができた。福大出身の方も多くいらっしやったので、その方々の話を身近に感じることができた。大学生活については、自分の興味のある分野について調べたり、活動に積極的に参加したりすることにより、自分がやりたいことを明確に持ちながら過ごしていくこと、また、その仕事に就く為に必要な資格等に挑戦していくこと、研究室を大いに活用して先生方から情報収集していくこと、などを学んだ。また、課題に対しては、今回、施設訪問や研修会に参加することで、県庁の業務だけでなく、現場で働く人の声を聞くことができ、障がい福祉分野についてあらゆる方面から学ぶことができた。障がい福祉行政において取り組んでいかなければならない取り組みとして、特に障がい者の方々の方々の地域移行についてあげられていた。障がい者の方々が自ら生まれ育った地域で生活していく為にこれまでの施設入所中心から、身近な地域で生活するという考え方に焦点をあてることで、障がい者の方々だけでなく、その家族、施設、地域等との観点にも目を向け、対策をしていかなければならない。その為に、障がい者の方々には、自らの意思で選択・決定できるように一人一人に違った支援を進めていかなければならない。本人の意思決定の為に一助として、地域生活がどういうものかを本人に理解してもらい、地域生活体験に対する支援を行う。また、障がい者の家族からの理解と協力をすすめていかなければならない。地域生活体験を行っている様子やグループホームを見てもらい、理解、安心が得られる取り組みを行うこと、地域生活移行の普及啓発を行うことも大切である。その他、施設側や地域に対する対策など、一つの取り組みに対しても、このような大掛かりなものになっていた。

### ③実施したテーマ、課題の他に今回のインターンシップで発見したこと、得たこと

今回は障がい者支援グループの業務の他に私が興味のある、福祉機器の展示室を見学させていただくことができた。福祉機器の歴史、今後の福祉機器のあり方など、業務とはまた違った点で、障がい者の方について学ぶことができた。

また今回、3件の施設を訪問した。障がい者の方々と交流をすることは今までなかったので、大変緊張したが、私が行った施設の障がい者の方々は外交的で親しみやすかった。また、職業に対する意識が高く、授産施設等で、自分が与えられた仕事に誇りを持ち、一生懸命やっていて、障がいを全然感じさせなかった。私の中にあつた障がい者の方々に對する見方が良い方向に変わった。



**④今回のインターンシップは今後の学習や大学生活および今後の進路の選定を進める上で、どのような効果・影響を与えたか**

障がい福祉分野と一言で言っても、様々な職種があるなと感じた。だから就職活動を行う際には、その企業でどのような業務を行っているのか理解しながら進めていかなければならないと思った。進めていく際にも、本当に自分がやりたいことでないと、やりがいが見つけられず、長続きしないそうなので、自分にとって何がやりがいなのか、どのような仕事がしたいのか、考えながら決めていきたいと思った。また、大学での勉強の小ささを感じた。社会に出れば、大学以上に学ぶこと、社会にでなければ学べないことが沢山あると感じ、自分の知識の無さを痛感した。また、自分が就職できるのかと大変不安を感じた。これからは、もう少し机で行う勉強だけでなく、社会勉強も大切にしていきたいと思った。今回インターンシップを通して、2年生のこの時期に大学生活とは全然違った世界を体験して、気付けることも沢山あって、本当によかったと思う。

**⑤その他実習中に気づいたこと、感じたこと。**

県庁の仕事として、デスクワークはもちろん、あらゆる地域で講演会を行う機会があるとのことだったので、パソコンのエクセル、パワーポイントの技術は大学生の間に最低限身につけた方がいいと思った。それに加えて、来客や電話への対応など、業務以外にも自分が身につけなければならないものも沢山発見できた。

**⑥次年度以降インターンシップに参加する学生に伝えたいこと。**

インターンシップを通じて、職場の雰囲気や、社会人の生活を体験することができます。また、普段の会話を通して、大学生活や就職活動へのアドバイスをいただけるので、業務を体験する他にも様々な成果が得られると思います。何もできないことが当たり前なので、挨拶や受け答え等がしっかりしていれば大丈夫だと思います。気軽な気持ちで参加してみてください。

## 福島県庁 商工労働部 商工総務領域 商業まちづくりグループ

210610185 若色美幸(環境システムマネジメント専攻2年)

### 【要旨】

福島県は学校や病院等の公共公益施設、大型店など、まちなかに集中していた都市機能が次第に郊外へ移ったために、居住人口の減少や商業活動の衰退等が起こり、まちの機能が郊外へ拡散してしまった。そうした人口減少や急速な高齢化が進行する中、自動車に過度に依存している現状を改善しようと「持続可能な歩いて暮らせるまちづくり」の実現を目指している。

具体的には、小売商業施設を人口及び都市機能が高度に密集している地区に集積させる。それは一つだけではなく、いくつか小さな核となる地域を発展させ、その地域どうしを交通機関で結ぶ。そして生活圏内から公共交通機関を利用して目的地まで行くといった流れをつくる。社会実験では循環バスを新しいコースで走らせたり、ルート別の観光タクシーを運行したりする予定である。こうして、「集う」「商う」「住まう」「歩く」の4つの視点で中心市街地の再生を図る。

実習期間:平成 19 年 8 月 27 日(月)~9 月 7 日(金)

指導担当責任者:主幹 吉田 清一

実習月日(曜日)	担当係(者)等	実習内容
8月27日(月)	吉田主幹、など	業務の概要説明
8月28日(火)	菅原主査	福島市現地調査
8月29日(水)	菅原主査、増田主任主査	会議傍聴 統計資料の作成
8月30日(木)	増田主任主査	統計資料の作成
8月31日(金)	鈴木主査、吉田主幹	会議傍聴 一週目のまとめ
9月3日(月)	池田主査	会津若松市現地調査
9月4日(火)	池田主査	会議傍聴
9月5日(水)	菅原主査、増田主任主査	会議傍聴
9月6日(木)	星主事	レポート作成 資料修正
9月7日(金)	吉田主幹、池田主査	レポート作成 会議傍聴

### ①今回のインターンシップで実施したテーマ、課題

- ・ 県庁商業まちづくり領域の業務を把握した上で、自分の将来を見据えること。
- ・ 自分なりに中心市街地活性化について考えること。

### ②上記のテーマ、課題に対してどのような成果を得たか

私が 2 週間の業務を通して最も印象に残ったのは、女性の目線でまちづくりに取り組む会津若松市商店街の団体「Anessa Club,」に話を伺った時のことである。心からまちを大切に思う気持ちや楽しんで活動に取り組む様子が伝わってきた。個性豊かで斬新な発想は確実に人々の心をとらえ、まちに活力を与えているように思えた。

まちづくりを学ぶにあたり実感したことは、人がいて初めて[まち]というものが成り立っているということ。どんなに行政が社会実験や空き店舗対策を行おうとも、そこに住む人々が中心となって地域に対応させていかないと上手くいかない。

お金だけでは人は動かない。この「Anessa Club,」の女性方のように、主体的にしたからつくりあげていく社会づくりが必要である。

核となる人材や団体を中心に、人々の意見をまとめて実行に移していくのが理想である。県や市町村は、住民との信頼関係を築くこと。そして、案に対する助言や情報提供、補助金、PR方法等、住民をしっかりサポートすることが望まれる。

### ▼会津若松市社会実験において

歩いて街を楽しみたい場合、休憩所があると助かるものである。写真から分かるように、軒先や歩道にイスを設置して、入店しない方でも気軽に休んでもらえるよう工夫している。その他、お茶のサービス、トイレの貸し出し、荷物の預かりを実施している。



③実施したテーマ、課題の他に今回のインターンシップで発見したこと、得たこと  
2 週間の実習プログラムは、デスクワークや会議、現地調査とバランス良く組まれていた。その中では最も資料作成の作業が多く、エクセルやワードの必要性を痛感した。要旨をま

とめるという作業では、まとめ方によっては本来の意味と変わってしまうので注意した。また、簡潔にまとめすぎても漠然として伝わらないので、多少長くても一目で分かるような文にするよう努力した。

会議を傍聴して感じたことは、説明を踏まえた上での意見交換や質疑応答が大事だと思った。立場の違う方たちが互いに考えを共有したり、反論したりと何度も会議を重ねることによりよい構想が出来上がる。人が集まる会議という場は大変貴重であると感じた。

#### ④ 今回のインターンシップは今後の学習や大学生活および今後の進路の選定を進める上で、どのような効果・影響を与えたか

インターンシップを終えた今、進路が決まったかというところと全く絞れていない。むしろ選択肢が増えた。ただし少ないながらも知識が増え、視野が広がった。地域計画に関わる職業、特に公務員についてはメリットやデメリット、皆さんの体験などいろんな話を聞くことができ勉強になった。また、働くことの大変さも身をもって経験できてよかった。

将来の選択肢としては、コンサルタントや商工会、タウンマネージャー、研究者等、職業の幅はある程度広いことが分かった。事務職の公務員は自分の希望する職種につけるとは限らない。根底にあるのは、住民のために何かしたいという強い思いだということ。私自身、何を目的として働きたいのかを明確にした上で進路選定を行っていく必要がある。

#### ⑤ その他実習中に気づいたこと、感じたこと

今後の大学生活を資格取得や能力向上にあてて、有意義に過ごしたいと思った。また、知識のなさを痛感したので一般常識を身に付けるべく新聞や文献を読む習慣をつけたいと思った。

#### ⑥ 次年度以降インターンシップに参加する学生に伝えたいこと

インターンシップは面倒だ、と考える人も少なくないのではないだろうか。実際の現場に立って仕事ができるのも、失敗をして許されるのも大学のうちだけだと思う。また、会社という組織を外から見ることもできるいい機会だと思う。

百聞は一見に如かず。興味のある方は積極的に参加することをお勧めする。

## 福島県庁農業振興分野

210510098 鈴木佐知子（環境システムマネジメント専攻3年）

### 【要旨】

福島県庁で森林環境税の使い道についての検討をさせていただきました。福島県では平成18年4月1日から森林環境税を導入し、水源地域の森林や里山の整備、ボランティア活動への支援など、森林を守り育てる取り組みに使っています。

その中の取り組みの一つに福島県が森林環境税を財源とした森林環境教育があります。この森林環境教育を県が期待する実施規模での実行が確保されているかどうかについて検討しました。その結果、所要経費と交付金定額に、実施小学校でバラツキがあり、これは交付額の算定方法が、対象学年を一学年としたことに起因することが分かりました。書類を見て、その中から問題を見つけだす難しさを体験しました。

実習期間:平成 19 年 8 月 20 日(月)～ 8 月 31 日(金)

指導担当責任者:森林林業領域森林計画グループ 宍戸裕幸

実習月日（曜日）	担当者	実習内容
8月20日（月）	宍戸裕幸	森林計画グループについてのガイダンス
8月21日（火）	宍戸裕幸	森林環境学習の市町村別の取り組みのまとめ
8月22日（水）	宍戸裕幸	レポートのテーマ決め
8月23日（木）	宍戸裕幸	森林環境教育の改善についてのレポート作成
8月24日（金）	宍戸裕幸	森林環境教育の改善についてのレポート作成
8月27日（月）	宍戸裕幸	森林環境税を活用した現場の視察
8月28日（火）	宍戸裕幸	森林環境教育の改善についてのレポート作成
8月29日（水）	宍戸裕幸	森林環境教育の改善についてのレポート作成
8月30日（木）	宍戸裕幸	森林環境教育の改善についてのレポート作成
8月31日（金）	飯束昭三	森林環境教育の改善についてのレポート作成・報告

### ①今回のインターンシップで実施したテーマ、課題

私は昨年もインターンシップを体験し、その時は企業にお世話になりました。企業の仕事を体験してみて、今まで知らなかったことを学ぶことができました。そのために今度は、公務員という仕事を深く知りたいと思い、今回体験してみようと思いました。

また福島という森林が70%も占めている自然豊かな県で、どのような取り組みがなされているのか興味がありました。

### ②上記のテーマ、課題に対してどのような成果を得たか

福島県は県民一人一人が参加する新たな森林作りを効果的に進めるため、市町村が独自性を発揮して創意工夫を凝らした決め細やかな森林事業を展開することが出来るよう平成18年度から森林環境税を導入しています。これを財源とした森林の整備と森林環境教育などを実施しています。平成18年度は初の試みであるにもかかわらず、県の約半数の小中学校で取り組みがなされました。しかし交付金という性格上、その実施方法は市町村に委ねられており、実際のカリキュラムや対象学年、実施回数など多くの面でバラツキが生じています。このバラツキの原因を制度の面から検討しようと思いました。

当初の予定では実施小学校は全県547校の約40%にあたり、森林環境学習の配分として、 $(\text{児童数}/6) \times 1000$ 円と計算し、一人当たりの森林環境学習に充てる金額を1000円とし、各学校で単一学年のみの実施予定でした。

検討した結果、参加児童一人あたりは約1200円となり、基本枠算定上の経費1000/人と比較して大きな開きは見られませんでした。このため所要経費の多寡は参加人数と回数及びその内容に左右されていることが分かりました。その参加回数を見てみると、54%の学校で複数学年行っていることがわかりました。特に児童総数が250人以下の学校で複数学年を対象とする傾向が見られました。

この結果から、所要額の算定はほぼ妥当であることから、一人にかかる経費は1000円に変更はせずに、算定人数の見直しが必要であるという結論に至りました。実際の学校では単一学年の実施が少ないことから見て、現場の状況と算定人数が合っていないものと考えられます。

### ③実施したテーマ、課題の他に今回のインターンシップで発見したこと、得たこと

今までは教育という分野には全く興味がありませんでしたが、次世代を担っていく子供たちに森林に触れさせるのはとても大切なことだと思いました。持続可能な現場である森林は、次世代の子供たちが中心となる活動です。教育は本来ならば1回で終わってしまうものではなく、事前指導、事後指導が最も重要な部分となります。事前指導を行うことで目的を理解させ、その後の事後指導でより正確に活動内容が理解できます。低学年では森の大切さを学ぶことは難しいかもしれませんが、森の楽しさなら伝わると思います。低学年という早い段階で森の楽しさを教え、学年が上がっていくごとに森の重要性を学んでいければ自然と身に付くことが出来ると思いました。子供の成長を利用して環境教育を教え

ていけたらいいと思いました。また、そうするためにはまず私たち大人がしっかりと理解しなければいけないと思いました。

**④今回のインターンシップは今後の学習や大学生活および今後の進路の選定を進める上で、どのような効果・影響を与えたか**

自然に関わる仕事に付くことの大変さを感じました。頭では理解していても、なかなか成果が現れず、また利益が出にくいと感じました。今も里山の荒廃が問題になっていますが、林業がなかなか産業と結びつかない現在では、間伐をしていくのも大変だと思いました。しかし手入れされた人工林を見て、木がとても気持ちよさそうに並んでいると感じました。原生林だけでなく、人工林も貴重な財産ということを考えさせられ、人工林にももっと目を向けていこうと思いました。



人工林

**⑤その他実習中に気づいたこと、感じたこと**

県庁では温暖化対策としてエアコンの使用を控えたり、電気もこまめに切ったりしていました。私がお世話になったところは温暖化対策チームではなかったのですが、県庁全体で積極的に温暖化対策をしており、まずできるところからは始めるという考えが伝わってきました。

**⑥次年度以降インターンシップに参加する学生に伝えたいこと**

去年もインターンシップを体験して思いましたが、どんなことでも体験することが大切だと思います。自分には興味のない分野だと思っても、実は興味のある分野と何かしら繋がっているはずです。もちろん体験するだけでなく、そこから何を学ぶかが重要です。今回私は大きな仕事をさせていただきました。これは普通に社員として入ったらすぐには出来ない仕事でした。このようにインターンシップの学生だから出来ることが多くあります。失敗してもそれが貴重な経験になります。このチャンスを逃さないように、様々なことに挑戦するべきだと思います。

## 福島市役所 環境課

210610167 丸山 愛(環境システムマネジメント専攻3年)

### 【要旨】

私は今回、福島市役所環境部環境課と、同じ部内の清掃管理課で職場体験をさせていただきました。環境課は、水質調査などの環境調査や、地球温暖化対策の啓発事業やエコクッキング等の省エネ・省資源等の環境教育に関する事業の他、市営墓地の管理や畜犬登録など、市役所内では珍しい多分野を扱う課です。清掃管理課は、「ゴミの減量化」と「リサイクルの推進」を柱とし、様々なごみに関する業務を行っています。また、ふれあい訪問収集や環境基金、集団資源回収報奨金交付制度など市民のことを考えた取り組みも行っていきます。職場体験では、各課における様々な業務の体験、施設の見学などをさせていただきました。市役所での仕事は実際にはどのようなものなのか理解を深めることができました。

実習期間:平成19年8月7日(火)～8月10日(金)、8月20日(月)～8月23日(木)

指導担当責任者:環境保全グループ 主幹(グループリーダー)多熊 勝夫

実習月日(曜日)	担当係(者)等 (敬称割愛)	実習内容
8月 7日(火)	半澤、渡辺	地下水などの採水
8月 8日(水)	半澤、山口	エコクッキング、パックテスト
8月 9日(木)	鶴田、山口	エコクッキング
8月10日(金)	山口、山岸	市役所内の見学、会議聴講
8月20日(月)	伊東、斉藤、鈴木	講義、清掃パトロール、不法投棄調査
8月21日(火)	高子	あらかわクリーンセンター見学、 資源化工場業務の体験
8月22日(水)	部長、長井、小林	最終処分場の見学
8月23日(木)	佐藤	環境衛生グループに関わる施設見学

### ①今回のインターンシップで実施したテーマ、課題



1. 仕事の一部を体験または見学し、環境課・清掃管理課について理解を深める。
2. 各課に関わる施設見学
3. 1、2を通して、環境問題やゴミ問題、それぞれの問題に対する市の取り組みへの理解を深め、問題解決のために市が市民に求めていることは何か、ということについて考える。

## ②上記のテーマ、課題に対してどのような成果を得たか

環境課では地下水の採水、エコクッキング等の体験や、地球温暖化対策に関する会議（県主催）の聴講もいたしました。また、福島市斎場や茂庭の簡易水道施設等の環境衛生グループ（環境課にある2つのグループのうちの1つ）に関わる施設及び、自然との共生を学ぶ施設である小島の森や福島市ほか県北地方の水瓶である摺上川ダム等の施設（今年4月から全市給水開始）を見学しました。地下水の採水では、初めて見る道具（図1）を使って採水しました。エコクッキング（市民の方たちに環境に配慮した食生活について学んでもらう料理会）では、スイカの白い部分を使ったデザートなど、ゴミを出さない環境に優しい料理を作りました。また、食後にはCODパックテストを使って、色々な汚れた水のCODを調べました。（図2）一般の方々に環境問題について学んでもらうこの様なイベントは、環境問題を解決する上でとても良いものだと思います。また、イベントの後も環境に配慮した生活を継続したり、周囲の人に勧めたりする（市と市民の橋渡し）ことが市民側に求められていることだと思います。清掃管理課では清掃パトロール、不法投棄調査、資源化工場の業務体験をすることができました。また、最終処分場やゴミ集積所を見学しました。清掃パトロールでは、ゴミ収集所に捨てられているテレビやタイヤなど市で収集できないものに、張り紙をつけました。（図3）資源化工場では、収集されたペットボトルの仕分けをしました。ペットボトルは蓋とラベルを取って、中を水ですすがないといけませんが、収集されたものの中にはそれらを怠って出されたものが沢山あります（中にはペットボトルでない物も混ざっています）。そのままでは資源としてリサイクルできないので、資源化工場では手作業でラベルや蓋を外したり、中の汚れがひどいものは可燃物として仕分けする作業をしています。今回わたしは、この作業を 実際に体験してきました。（図4）ベルトコンベアーで次々とペットボトルが流れてきて、一つ一つ手作業で仕分けします。私はこれまでペットボトルが収集された後に、この様な大変な作業が行われていることを知りませんでした。このことを知れば、正しい資源ゴミの出し方をしていなかった人の意識も変わるだろうと思いました。

## ③実施したテーマ、課題の他に今回のインターンシップで発見したこと、得たこと

「何のために働くのか」ということについて考えてみると良い、と指導していただいた方に言われました。私はこの問いへの答えを持つことは、これから働いていく上でとても大事だと思います。しかし、私はまだこの問いに対して満足できる答えを持っていません。なので、これからじっくりと考えていこうと思いました。

(私は人の笑顔を見ることに幸せを感じます。人の役に立ったり、人に幸せな気持ちを与えるために働きたいと、今は考えています。)

**④ 今回のインターンシップは今後の学習や大学生活および今後の進路の選定を進める上で、どのような効果・影響を与えたか**

インターンシップに参加する前は、市役所の仕事内容をほとんど知りませんでした。しかし、インターンシップ中に資料を見たり、仕事を一部見学、体験したことによって以前よりはっきりと仕事内容をイメージできるようになりました。

進路を選定するには、その前にまず自分の興味がある職業をよく知ることが必要です。従って、今回のインターンシップは、進路選定の準備としてとても有意義なものだったと思います。

**⑤ その他実習中に気づいたこと、感じたこと**

職場に限らないことですが、挨拶の大切さを学びました。挨拶は礼儀作法というだけでなく、お互いの関係を守る大切なものだと改めて感じました。

**⑥ 次年度以降インターンシップに参加する学生に伝えたいこと**

インターンシップ先に関する知識は、指示がなくてもつけておくと良いと思います。そうすれば、実習がより有意義なものになると思います。



図1. 採水に使った道具



図2. パックテスト



図3. 清掃パトロール



図4. 資源化工場業務の体験

# 日栄工業株式会社福島工場

210610176 山中崇志(産業システム工学専攻2年)

## 【要旨】

今回インターンシップで、日栄工業株式会社福島工場に8月27日(月)～31日(金)、9月3日(月)～7日(金)の期間で計10日間お世話になった。

主な内容として、新入社員よりの教育キットとして使われる、直行型小型精密ステージの分解、組み立て、精度調整を行った。また、工程会議やISO講習にも参加させていただき、ほかにも、他の企業の工場見学もさせていただいた。

インターンシップでは、仕事の現場で働いたり、工場見学をすることにより新たな知識を得ると共に、大学では感じることのできない職場の雰囲気を楽しむことができ、とても良い経験になった。

実習期間:平成19年8月27日(月)～9月7日(金)

指導担当責任者:社長 福原修一

実習月日(曜日)	担当係(者)等	実習内容
8月27日(月)	福原社長	研修ガイダンス
8月28日(火)	小野	精密ステージの分解 土台の組み立て
8月29日(水)	小野	下軸リニアレール
8月30日(木)	小野、佐藤部長	下軸リニアスケール、ボールネジの組み立て調整 ISO講習
8月31日(金)	小野、鈴木	下軸ボールネジ、モーターの組み立て調整 工程会議、上軸リニアレールの組み立て調整
9月3日(月)	小野	上軸リニアレールの組み立て調整
9月4日(火)	小野	上軸ボールネジ、リニアスケール、モーターの 組み立て調整
9月5日(水)	小野	精密ステージ配線、精密ステージ精度検査(ヨー イング、位置決め精度)
9月6日(木)	佐藤次長	池田精機製作所さん、小形製作所さん シオヤユニテックさん見学
9月7日(金)	福原社長	まとめ、懇談会

### ①今回のインターンシップで実施したテーマ、課題

新入社員用の教育キットとして使われる、直行型小型精密ステージの分解、組み立て、精度調整を行う。精度調整では様々な測定器を用いて、2本ある鉄製のリニアレールの曲がり具合や平行度のまで調整をした。

また工程会議に参加し、工程立案に対しての質問や改善案を出して話し合うところも見学させていただいた。

さらに他の企業の見学をし、様々な加工器機が現場で稼動しているところも見させていただいた。

### ②上記のテーマ、課題に対してどのような成果を得たか

精度調整では、2本の鉄製のリニアレールの曲がり具合をピックテスターという測定器で測りながら、それぞれ $5\mu\text{m}$ 以下にし、基準レールと従動レール平行度を8秒（角度の単位で1度の $1/3600$ ）にする為に、レーザー測長機で曲がり具合の確認をしながら、レールを固定するためのねじを緩めて、手でレールを曲げて、ねじを締めることを繰り返し行った。

レールは少し手で押すだけで数十 $\mu\text{m}$ も曲がってしまい、その数 $\mu\text{m}$ または数秒の誤差を修正するのに実習の大半の時間を要した。このことから精密機械を作るうえでは、私がとても小さいと思っていた $\mu\text{m}$ という単位は非常に大きいものなのだとわかり、また、非常にかたいようにおもわれる金属も割と小さな力でも変形することがわかった。

また、工程会議では約1ヶ月半での工場内の部門毎の、製品組み立ての進み具合や、納期等が細かく書かれた工程表について質疑応答を行うところを見学し、スムーズに仕事を行うためには、このようなシステムの管理が必要なのだという実感を覚えた。

さらに企業見学では、日栄工業さんの協力会社である企業3社をまわり、幅が約10mもある巨大な旋盤とフライス盤、金属の細かい加工をするワイヤー加工機、金属板に穴を開けるパンチプレス、分厚い金属板を穴あけと切断もできるレーザー加工機、溶接機など大学には置いていない数多くの加工機を見ると同時に使い方や仕組みを学ぶことができ、金属の加工には様々な機械と手法があることがわかった。

### ③実施したテーマ、課題の他に今回のインターンシップで発見したこと、得たこと

将来は金属の合成の研究に携わる仕事がしたいをと担当の方に話をしたところ、金属の曲がり具合や熱膨張率、メッキ加工等についての話を聞くことができた。

またインターンシップ中にISOというものの学習会にも参加した。ISOとは品質管理や環境に関する国際規格のことで、認証取をすると、経営上に様々なメリットがあるので取得する企業が増加していることを知った。

### ④今回のインターンシップは今後の学習や大学生活および今後の進路の選定を進める上で、どのような効果・影響を与えたか

私は大学ではただ漠然と試験のために勉強しており、学んだことが本当に社会に出て役に立つのかどうか不安を抱えていましたが、インターンシップ中に、授業で聞いたことがある用語がいくつか出てきて、普段から大学で学んでいることは社会にでも役に立つことがわかった。

今回のインターンシップでは、大学の勉強の必要性を感じたので、とりあえずは大学で学べることを精一杯身につけていこうと思った。

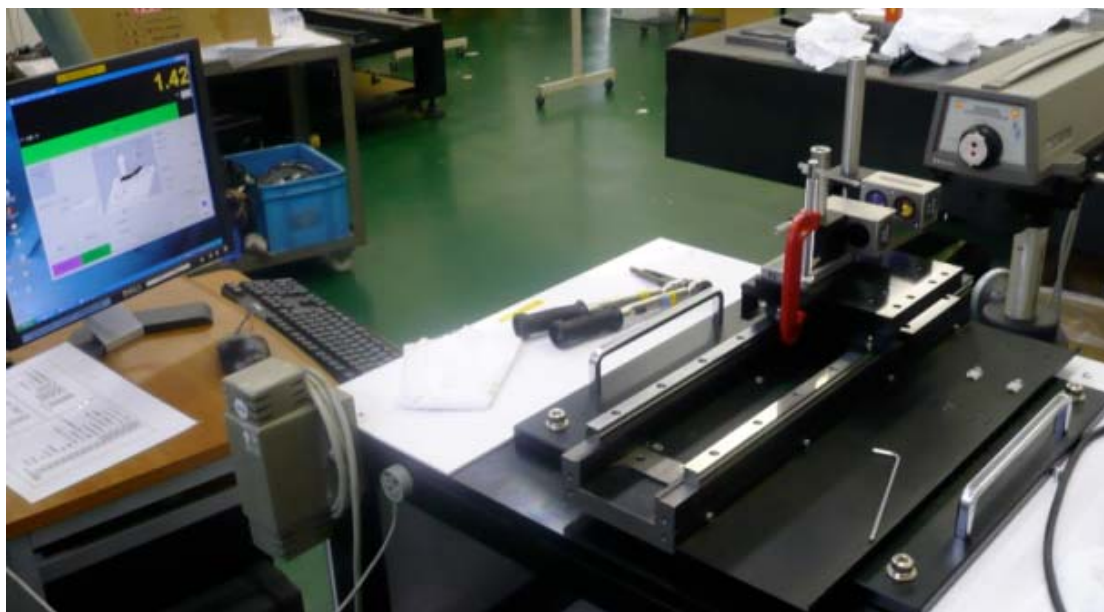
#### ⑤その他実習中に気づいたこと、感じたこと。

作業の初日に気づいたことは、作業の大半は立ち仕事だったので、疲れて足が痛くなり、立ち仕事は意外と重労働だと知った。

また、職場の雰囲気が思ったよりも家庭的であった。中小企業は労働者の数が少ないので、社員に多少の無理をさせることがあり、一人ひとりの責任の負担が大きいため、社員のことを考えると、そうならざるをえないとのことだ。

#### ⑥次年度以降インターンシップに参加する学生に伝えたいこと

インターンシップは、学習会や、電話でのアポイントメント、事前訪問、発表会など、面倒に思えることは多くありましたが、学ぶことが多く、最終的にはやって良かったと思う。もし、来年やろうかどうかと迷っている人がいたら、面倒臭がらずに、ぜひ参加してみたいと思う。



↑ レーザー測定の様子

右の機械から出ていて、台の上に乗っているレンズの反射の角度をパソコンで読み込んで測定する。

# 財団法人福島県保健衛生協会

210610168 皆川 絵梨(環境システムマネジメント専攻2年)

## 【要旨】

私は今回のインターンシップで、財団法人福島県保健衛生協会の分析課で10日間お世話になりました。そこでは研修させてもらっている立場であるのに、さまざまな仕事に携わることができ、会議にも参加させていただきました。主な研修内容は、実際の現場に行くサンプリングと水質・作業環境の分析です。基本的に午前中にサンプリングし、それが終わると採集した試料の分析をします。さらに福島県保健衛生協会では身体を守る仕事をしているので、分析以外の仕事を持っており、担当していただいた分析課以外も体験させていただきました。

実習期間：平成19年9月3日（月）～9月14日（金）

指導担当責任者：分析課課長 林王克明

実習月日（曜日）	担当係（者）等	実習内容
9月3日（月）	林王 細川	概要説明
9月4日（火）	佐藤政浩 細川	水の採集
9月5日（水）	佐藤政浩 細川	湖畔の水の採集
9月6日（木）	藤野	河川・事業所排水の採集と分析
9月7日（金）	佐久間	作業環境測定（分析）
9月10日（月）	青木	検査課見学
9月11日（火）	佐藤政浩	飲料水の検査
9月12日（水）	宍戸	煤煙検査
9月13日（木）	藤野	飲料水の検査
9月14日（金）	藤野	排水調査 まとめ

①今回のインターンシップで実施したテーマ、課題

私の立てたテーマは、「(1) 職場の雰囲気に慣れること、(2) 社会のマナーを知ること」という簡単なことですが、大事なことだと思ひそうしました。

## ②上記のテーマ、課題に対してどのような成果を得たか

(1)については、自分の力ではなく職場の人たちのおかげで、職場に早く馴染むことができるようになりました。私を外部者のように扱わず、職場の一員のように仕事を与えてもらい、しかし学生なのだから沢山学べるようにと気遣っていただきました。

(2)はまず「あいさつ」、そして「使ったものは元に戻す」という基本的なことが大切だと教えられ、心がけました。あいさつというのは思っていた以上に重要で、職場内でのあいさつや、仕事でお世話になる相手先へのあいさつによって、お互いの関係を円滑にし、仕事がしやすくなる効果があります。一緒に同行した職員の方に作法を習うため付いていき、サンプリングのためにお邪魔する相手にあいさつをしたとき、とても丁寧にあいさつやお願い、感謝の気持ちを表していたと思いました。

もうひとつの「使ったものは元に戻す」というのは、使った道具の整理などをさすだけではなく、サンプリングのために変えてしまった状況を元に戻すことや、分析に必要な試薬などをその環境にばらまかない心遣いをさします。こちらの仕事をしたことで、他の人の迷惑にならないようにすることは最低のマナーなのだと学習しました。

③実施したテーマ、課題の他に今回のインターンシップで発見したこと、得たこと  
インターンシップ中に台風が直撃したのですが、水質はサンプリング時の天候に左右されるので、その日はサンプリングができませんでした。何日か水質調査を行ったことで私も普段以上に河川の状態に敏感になっていたもので、台風の直後の河川の変わりように驚きました。そのとき自然の力は強力で、自然と向き合う仕事は自分がどんなに手際よく仕事をしようと、自然の都合が合わなければ仕事が進まないのだと思ったのです。これはただ「わかった」というのではなく、わかった瞬間何か感動したような強い印象を受けたものでした。自然の中に私達がいるのだという思いがして、そんな思いができたということだけでも今回のインターンシップをしてよかったと思っています。



晴れた松川浦



一般宅の水道水

④今回のインターンシップは今後の学習や大学生活および今後の進路の選定を進め

### る上で、どのような効果・影響を与えたか

インターンシップを体験したことで、大学の授業をもっと積極的な姿勢で臨もうと思えるようになりました。今回の受け入れ先は専門の技術や自然に対する知識が必要だったので、大学で行っている授業の内容などが普通に使われていました。それに小・中学の理科の内容も重要なことが多く書かれていたことに気づきます。大学での講義を受けながら、その理解を深めるために自ら過去に学んできたことを復習したり、新たな知識を本などから取り入れることを始めようと思います。

### ⑤その他実習中に気づいたこと、感じたこと

今回のインターンシップでは、サンプリングという、直接現場に試料を取りに行く作業を何回も経験しました。そのサンプリングをしに行った現場は、県内の河川、沼、事業所、一般宅の水道などというありとあらゆる場です。2日目には雄国沼という会津の山奥の沼に行ったのですが、車がやっと通れるような細い道で、沼に持ってきたボートを担いで下ろすという大変な作業を必要としました。あまり体力に自身の無い私は、そのときこの仕事は女性に向かない仕事なのかもしれないと思ったのです。しかしその後、こういうところで頑張っている女性もいるからそうも言えないと教えられました。

### ⑥次年度以降インターンシップに参加する学生に伝えたいこと

インターンシップ中は慣れないことばかりで疲れると思います。最初は緊張し、自分が何をしていたか、どの道具には触ってはいけないかなどという心配ばかりで、知らないうちに気疲れするはずですが、だから、調べたいことがある場合は事前に調べておくといいと思います。私は BOD や COD の意味を知らず、説明のために沢山の時間を割いていただいたので、そのことを事前に調べておくといいと思います。

知りたいことがあれば遠慮せず、学生の特権だと思っていろいろ聞いてみるといいでしょう。職場の人以外も私が学生だと知ると、ためになることを沢山教えていただいたので、とてもうれしいことだと思いました。学生を応援してくださる方々の有難さには、本当に感謝しています。それに応えられるよう、たくさん学ぼうという態度で臨んでもらいたいと思っています。



## 応用地質株式会社東北支社

210610089 佐藤 大地(人間支援システム専攻2年)

### 【要旨】

応用地質株式会社の東北支社で 2 週間、就業体験をさせていただきました。主な研修内容は現場での魚類調査と事務所内でのデータ整理などである。実習期間中には摺上川ダム、蕪栗沼、千刈江の 3 地区で調査を行った。1~3 日目の摺上川ダムの調査ではダムが建設されることによって起こる環境変化や、その調査で得たデータがどのように活かされるのかということについても教えてもらうことが出来た。

また事務所では単調な作業の繰り返しが多かったものの働くことの実際を知り、職場の雰囲気を感じ取ることができた。

実習期間:平成 19 年 8 月 27 日(月)~9 月 7 日(金)

指導担当責任者:技術部 副部長 平出 亜

実習月日(曜日)	担当係(者)等	実習内容
8 月 27 日(月)	佐藤さん 鎌田さん 花岡さん	摺上川ダム貯水池内魚類調査
8 月 28 日(火)	佐藤さん 鎌田さん 花岡さん	摺上川ダム貯水池内魚類調査
8 月 29 日(水)	佐藤さん 鎌田さん 花岡さん	摺上川ダム貯水池内魚類調査
8 月 30 日(木)	佐藤さん	調査データの入力・整理、ワード文書の作成
8 月 31 日(金)	佐藤さん 高橋さん	ワード文書の作成、 調査資料のスキャニング作業
9 月 3 日(月)	佐藤さん 鎌田さん 堀さん	蕪栗沼地区魚類調査
9 月 4 日(火)	高橋さん	調査資料の印刷
9 月 5 日(水)	佐藤さん 鎌田さん	千刈江地区魚類調査

9月 6日 (木)	佐藤さん 沖津さん 高橋さん	調査データの入力・整理
9月 7日 (金)	佐藤さん 高橋さん 沖津さん	調査データの整理、 調査資料のスキャニング・印刷・製本

#### ①今回のインターンシップで実施したテーマ、課題

普段の講義では学ぶことのできない社会に出て職場で働くことの雰囲気を感じることに。どんなことでもいいから自分なりの感想をもつこと。

とくに将来何になりたいというものがない自分にとってまず働くということがどんなものなのかを知ることで自分の進路のきっかけにしたいと考えた。

#### ②上記のテーマ、課題に対してどのような成果を得たか

働くことの雰囲気といっても職場によって様々だと思うが、2週間の体験を通して少なからず期待する成果を得ることができた。

今回お世話になった応用地質では野外に出た現場調査と事業所内での事務作業を体験したが、どちらの場合も朝早くに起きて出勤するという社会に出れば当たり前であろう行為がひどく辛かった。また事務作業では多くの疑問点を担当の方に質問して確認をとりながらおこなった。簡単なデータ整理ひとつとっても一人ではこなせないことを知っただけでも今後やるべきことのヒントになったと思う。

#### ③実施したテーマ、課題の他に今回のインターンシップで発見したこと、得たこと

就職してからが本当の勉強だと教えてもらった。

日ごろから疑問に思っていたことだが大学を卒業してどこかの企業に就職したり、学校の先生になったらすぐその日から仕事ができるのかどうか？体験先で教えていただいた話では、「就職して仕事をするようになってから学ぶことのほうが多かった。大学の講義と違い、実際に必要になる知識なので必死になって勉強した」ということだった。環境や生物を扱っているため、新しい情報や技術をできるだけ学ぶことが大切なようだ。

#### ④今回のインターンシップは今後の学習や大学生活および今後の進路の選定を進める上で、どのような効果・影響を与えたか

先述したように全くといっていいほど将来のビジョンを持っていない私ですが、いつかは自分もこうして何かの仕事について働くことになるのだという現実を感じた。

しかし、だからといって急いで進路を決めるのではなく、今後の学生生活のなかでじっくり考えていきたいと思った。

**⑤その他実習中に気づいたこと、感じたこと**

会社の方にも言われたことだが、いま学生でいることの幸せさを十分に理解し、これからの大学生活を一生懸命楽しむとともに有意義に過ごしたいと思う。

**⑥次年度以降インターンシップに参加する学生に伝えたいこと**

あまり緊張せずにインターンシップに望んでほしい。聞きたいことは遠慮せず聞いてみることで、自分の意見・要望をしっかりと相手に伝えることが大切である。

さらに訪問先にもよるが天候には気をつけてほしい。私の最終日は台風が直撃して通勤中に服がびしょぬれになった。

## (株) 福山コンサルタント 東北事業部

210610173 山内ひかり (環境システムマネジメント専攻2年)

### 【要旨】

株式会社福山コンサルタント東北事業部で10日間の日程で実習を行わせていただいた。

今回、環境に興味があり、職場の雰囲気を感じて将来に役立てたいということもあって、インターンシップを希望した。

実習は環境 G で主にワードとエクセルを用いてデータ整理を行った。また、事業を行う周辺の状況を把握するための地図を用いた検索などの作業も行った。

研修により、これから環境を考える上で役に立つことを知ることができた。また、社会へ向けての意識を持つことが出来た。

実習期間:平成 19 年 8 月 20 日(月)～ 8 月 31 日(金)

指導担当責任者:課長補佐 池澤 紀幸

実習月日 (曜日)	担当係 (者) 等	実習内容
8 月 20 日 (月)	池澤、吉田	実習説明、データの整理
8 月 21 日 (火)	池澤	データの整理
8 月 22 日 (水)	池澤	給水戸の把握
8 月 23 日 (木)	池澤	給水戸の把握、データ整理
8 月 24 日 (金)	池澤	レポート・表資料の作成
8 月 27 日 (月)	池澤	給水戸の把握
8 月 28 日 (火)	池澤	データの整理、パワーポイントの作成
8 月 29 日 (水)	池澤	巨木の把握、パワーポイントの作成
8 月 30 日 (木)	吉田	データの整理
8 月 31 日 (金)	池澤、吉田	データの整理、パワーポイントの作成

### ①今回のインターンシップで実施したテーマ、課題

環境、特に調査関連について興味があったので、実際にはどのような仕事なのか知りたいと思っていた。また、職場独特の雰囲気を肌で感じ、一社会人としての意識を持てるようになりたいと思い、インターンシップの実施に至った。

実際の作業では、主に調査のためのデータ整理を行った。

### ②上記のテーマ、課題に対してどのような成果を得たか

今回、現地調査を行うことはなかったが、現地での調査について色々な話は聞くことが出来たし、より社内で行う作業について知ることができたと思う。法律について文章のまとめをしたり、現地でとった映像を根気よく眺め続けたりする作業があるとは思ってもいなかったのを知ることができてよかった。

環境コンサルタントでの調査では、依頼した相手の要望によって調べ方を変えていたりすることも知った。実習前はあまり深く考えたことはなかったが、なんとなく調査とは単一なものだと思っていたので、考えを改めることになった。

職場の雰囲気はやはり学校で感じるものとは異なり、対応の仕方も違っていた。長期アルバイト経験のない私にとってはよい経験となった。

データの整理作業により、エクセルの作業になれることが出来た。また、手作業での地図の整理では、見やすさを追求することによって、現場の情報がきちんとわかるように作成されたということ意識した。

データ整理を行った際、表・グラフ作成を行うと結果が予想とは違ったこともあった。事業を行う付近の巨木を把握するために地図やインターネットで探したときは、ご神木といわれていたものでも探すのは困難なものもあった。調査とは決して簡単なものではなく、重要なものだと実感した。

### ③実施したテーマ、課題の他に今回のインターンシップで発見したこと、得たこと

まだ学校では調査を行って結果をまとめる作業はそれほど多くはやっていないが、会社ではより正確、丁寧さを求められていると感じた。

また、職場の方々には仕事に就く集中して作業を行っていたが、息抜きすることも忘れず、その辺の切り替えはうまいと思った。フレックス制の会社だったためか、時間にやや寛容にも感じられたが、締め切りは守るところはきちんとしており、やはりちがうのだと感じた。

私がインターンシップを行ったグループは、出張もデスクワークもどちらも多いように思われた。現地で調査を行う人は大ケガを負うこともあるので、自分が実際に行うことになったら慎重にならなければならないと思った。

### ④今回のインターンシップは今後の学習や大学生活および今後の進路の選定を進める上で、どのような効果・影響を与えたか

今後、将来を考える上でよりいっそう勉学に励まなければならないと感じた。今回の実習では特別な技術を必要としたわけではないが、働くとなると、今のままの授業に向かう意識では甘いと感じた。さらに、責任を持って行動していかなければならないと思うようになった。

#### ⑤その他実習中に気づいたこと、感じたこと

企業でのインターンシップ中、自分の言動や行動などに多々よくない癖が見られた。普段はあまり気にしていなかったものの、今後は直していきたいと思うようになった。

また、会社の皆さんは忙しいにも関わらず、やさしく接してくださった。

最初の頃は緊張してあまりコミュニケーションがうまく出来なかったが、徐々によくなっていったと思う。もっとうまくしたい、もっとやりたいと思いつつ、二週間はあっという間で実習期間を終えた。

#### ⑥次年度以降インターンシップに参加する学生に伝えたいこと

インターンシップを行うことで職場の雰囲気や働くとはどういうことかを感じ取れたらよいと思う。今回、私が行った企業では新しい技術を覚えることよりも、そういうことに関して配慮してくださった。

これまで意識することのなかったことや、知らなかったことを聞くチャンスである。会社の方たちの話は、会社に入るまでのことや仕事、私生活においてもそれぞれ興味深く、そういった話がたくさん聞けるのではないかと思う。

積極的に行って、経験できることをどんどん吸収できたらよいと思う。

## 福島市小鳥の森

210510130 東条 聡子(環境システムマネジメント専攻3年)

### 【要旨】

5日間の日程で、福島市小鳥の森で就業体験学習をさせていただきました。貴社では、森林を中心とした自然環境の保全を行いながら環境教育の拠点として機能させるために、「環境教育」、「環境調査」、「環境管理」の3つを柱とした事業を行っている。その中で今回行った主な研修は、環境教育と環境調査である。環境教育としては、野鳥の写真を展示する作業や小鳥のジグソーパズルの作成といった展示関係のことと、来訪者対応を、また環境調査としては、季節の動植物調査やラインセンサス法による鳥類の生息状況調査を行った。

他にもレンジャーさんと様々な話をさせていただき、この体験は将来の自分の進路を考えるためのいい刺激になったと思う。



↑写真1. 小鳥のジグソーパズル(作成途中)



↑写真2. 小鳥のジグソーパズル(完成)

実習期間:平成19年9月1日(土)~9月7日(金)

指導担当責任者:チーフレンジャー 鈴木 弘之

実習月日（曜日）	担当係（者）等	実習内容（簡潔に）
9月 1日（土）	鈴木 弘之	・ 展示作業
9月 2日（日）	長渡 真弓	・ 自然観察会 同行 ・ 展示物作成
9月 4日（火）	長渡 真弓	・ 環境調査：季節の生き物調査 ・ 団体来訪者の対応（ガイド） ・ 展示物作成
9月 5日（水）	長渡 真弓	・ 展示物作成
9月 6日（木）	鈴木 弘之	・ 環境調査：センサス調査 同行 ・ 展示物作成

#### ①今回のインターンシップで実施したテーマ、課題

- 職場の雰囲気を感じ取る
- 自然環境に関係する仕事についての理解を深める
- 与えられた仕事に責任を持って取り組む

#### ②上記のテーマ、課題に対してどのような成果を得たか

この5日間の短い研修期間だけでは、自然環境に関係する仕事を全て理解するという事は到底不可能である。それでも、福島市小鳥の森では楽しんで働くことができると強く感じた。

ネイチャーセンターは自然に囲まれていて、とても懐かしいような空間だった。親子連れや老人達が、立ち寄っては休んでいく。『小鳥の森は、自然を守り、自然とふれあい、自然に学ぶところ。』自然の中で、レンジャーさんと来訪者が楽しそうに話をしたり活動したりしていたのが印象的だった。このように人々とのふれ合いが多い現場なので、レンジャーに求められるものはコミュニケーション能力だと思った。環境調査や環境管理に求められる基礎的な知識や技術はトレーニングすれば身につくものだ。

仕事柄から、給料は決して高くないということは以前からよく耳にしていた。仕事の内容は、根気よく自然を観察したり展示物を作成したり、地道にコツコツとやるような地味なものである。それでも働いていくのだという気持ちを持っている人でないと、長続きしないそうだ。でも、小鳥の森のレンジャーさんたちは楽しんで仕事をしているのが分かった。就業体験学習を通して、少しだけでも、このような仕事をする事の楽しみややりがいを知ることができたと思う。

研修期間中に与えられた主な仕事は、小鳥のジグソーパズルを作ることだった。ネイチャーセンターのホールに展示して、子どもたちに遊んでもらうためのものである。ベニ



ヤ板に下書きをして切り取り、やすりがけをして色を染めるだけの簡単で楽しい仕事だが、数をこなすと大変地道な仕事である。(写真1、写真2参照。本当は最終日までに、一緒に就業体験をしていた鈴木さんと合わせて10セットを作り上げる予定だったが、完成させられなかったのが、後日完成させた。)でも、自分の作ったパズルが長い間子どもたちに遊んでもらえるのだと思うと、嬉しかったし、作りがいがあった。

### ③実施したテーマ、課題の他に今回のインターンシップで発見したこと、得たこと

#### ●インタープリテーション

レンジャーさんから教えていただいた言葉で、私は初めて聞いた言葉なのだが、世界中の様々な場面で活用されていることを知った。インタープリテーションとは単なる情報伝達でなく、体験や教材を通して、事物や事象の背後にある意味や関係を明らかにすることを目的とする教育活動のことだ。自然の中で自然のことを相手に説明する場合、ただ知識を連ねるだけでは印象に残らなくて、面白くないものになってしまう。インタープリテーションの目的として、①聞き手に自然についての新たな理解、興味、感動をもってもらうこと、②自分のガイドする自然を楽しみ好きになってもらうこと、③自然が発するメッセージを伝えることなどが挙げられている。

研修3日目の来訪者対応で自然ガイドをする時には、私も実際にこれを意識して活動したが、他人に何かを説明するような経験がほとんどなかったので、教えることの難しさを知ることができた。また“インタープリテーション”というものを知って、話す技術というのも社会では必要な能力なのだと思う。

#### ●人間関係のネットワーク

仕事をしていく上で、人とのつながりはとても重要になると教えていただいた。そのネットワークが広がることで知りたい情報を得ることができ、大きなメリットがある。そのために、社会人にはコミュニケーション能力が強く求められていると感じた。

### ④今回のインターンシップは今後の学習や大学生活および今後の進路の選定を進める上で、どのような効果・影響を与えたか

私は自然環境に直接関わるような何かをしたい、という漠然な思いを持っているけれども、その思いは仕事に対するものなのか、趣味としてのものなのか、はっきりと決められないでいる。仕事に対して、収入とかやりがいとか何を一番に求めるかによって、自分の進路は変わるものだ。レンジャーさんと話をしていて、何事も多くの経験をつむことで様々な発見があると聞き、今までの自分の行いを振り返ってみると、私はまだまだ無知であることを痛感した。

大学在学中に、動植物に限らず多岐の事物に関わる機会を多く持つことで、私はもっとたくさんのことを経験し、学んでいきたいと思う。

### ⑤その他実習中に気づいたこと、感じたこと

私はこれまで教育に関してあまり興味を持たずにいたが、長い時間をかけてジグソーパズルを作っていたことで少し考えが変わった。子ども達が、私の作ったパズルで遊んだり小鳥などの生き物に興味を持ったりして、何気なく自然環境について何かを学び取っていくのだと思うと、環境教育というのはとても興味深かったし、大切なことだと思えた。

#### ⑥次年度以降インターンシップに参加する学生に伝えたいこと

何かを知りたいと思ったら、積極的に行動を起こすことが大切だと思う。自分から動き出せば何かしら得るものがあるから、失敗を恐れずにいろんな事に挑戦して欲しい。



↑写真3. 自然観察会の様子



↑写真4. 小鳥の森でザリガニ釣りをする子ども

# 福島市小鳥の森

210610107 鈴木範子(環境システムマネジメント専攻2年)

## 【要旨】

私は、現場での実際の活動を見学・体験する事によって、職場の雰囲気を知り、関心のある環境教育について、将来の進路決定に役立てたいと思いインターンシップに参加した。小鳥の森では環境教育・環境調査・環境管理を主に行っており、実習期間中は様々な角度から多くの体験をさせていただいた。中でも、特に印象深く心に残っているのが、来館者のガイドをしたことである。環境教育において、一般の方に興味・関心を起こさせ、参加・体験を通じて自然に目を向けさせ、自ら考えさせる方向に導くことが重要であることを知った。インターンシップを通じ、普段出来ない体験や、幅広い年代の方々からの貴重なお話が今後の進路決定に役立つだろう。

実習期間:平成19年9月1日(土)～9月6日(木)

指導担当責任者:小鳥の森チーフレンジャー 鈴木弘之

実習月日(曜日)	担当係(者)	実習内容
9月1日(土)	鈴木	展示物(写真)の作成、展示
9月2日(日)	長渡	ショートトリップの参加、展示物(パズル)作成
9月3日(月)	長渡	環境調査、小鳥の森のガイド体験、 展示物(パズル)作成
9月4日(火)	長渡	展示物(パズル)作成
9月6日(木)	鈴木	センサス調査体験、展示物(パズル)作成

## ①今回のインターンシップで実施したテーマ、課題

職場の雰囲気を知り、関心のある環境教育について、現場での実際の活動を見学・体験する事によって、将来の進路決定に役立てたい。

## ②上記のテーマ、課題に対してどのような成果を得たか

小鳥の森では、環境教育・環境調査・環境管理を主に行っている。その中で、私たちは環境教育・環境調査について見学・体験をした。

まず、環境教育では展示物の作成と展示(小鳥の写真展、パズル)、イベント(ショートトリップ～きのこ狩り)、来館者のガイドなどの環境教育に関する活動を見学・体験した。環境

教育を行うにあたり、自分の知識である $\alpha$ を、いかに相手に $\alpha+$ として伝えられるかが大切である。実習中にインタープリター(interpreter)という言葉を知った。

\*インタープリターとは、自然観察、自然体験などの活動を通じて、自然を保護する心を育て、自然にやさしい生活の実践を促すため、自然が発する様々な言葉を人間の言葉に翻訳して伝える人をいう。(interpret=翻訳)一般的には植生や野生動物などの自然物だけでなく、地域の文化や歴史などを含めた対象の背後に潜む意味や、関係性を読み解き、伝える活動を行う人を総称している。一般には、自然観察インストラクターなどと同義に用いられることも多い。なお、インタープリターの行う活動をインタープリテーション(自然解説を訳されることも多い)という。

環境教育を行うにあたって、イベントや展示品などの創意工夫で、一般の方に興味・関心を起こさせ、参加・体験を通じて自然に目を向けさせ、自ら考えさせる方向に導くことが重要であり、その役割を担うのがセンターのレンジャーであった。ショートトリップでは、参加者の真剣なまなざし、熱心にノートを取る姿が見られた。来館者のガイドを体験し、自分の知識内の自然情報を分かりやすく、かつ来館者の反応を窺いながら興味を惹くようにガイドというのはなかなか思うようにいかなかったが、来館者が興味を持って聞いてくださっている反応があると嬉しくなった。





また、環境調査、センサス調査(小鳥の観察調査・種、個体数、行動、場所)を実施し、センター内の自然情報の把握を行った。環境調査では、夏から秋への季節の変わり目の時期に生息する、鳥、昆虫、植物などの調査をし、その情報を小鳥の森で発行しているジジウカラ(新聞)に掲載した。センサス調査では、予め決められた小道を時速 1km で歩き、半径 25m 以内にいる小鳥の種、個体数、行動、観測場所を記録した。自然調査を行い、その結果を例年と比較し変化の確認に役立て、また得られた情報を様々な角度から見る必要がある。そして、調査結果を基に環境管理をしていく。

### ③実施したテーマ、課題の他に今回のインターンシップで発見したこと、得たこと

昔「山遊び」として経験することによって自然と身についた、生活する上で役立つ雑学は、今や山遊びをする場所、機会が減少し知識がなくなってしまうつつある。小鳥の森のイベントに参加し自然の中での活動や、展示品から遊びながら学ぶ事を通じて知識を得ていくことが可能である。

### ④今回のインターンシップは今後の学習や大学生活および今後の進路の選定を進める上で、どのような効果・影響を与えたか

実際の活動を見ることで環境教育がどの位置にあり、どのように行われ、どのような効果をもたらすのかがより正確に捉えることができた。授業選択の上でも意識したいと思う。

### ⑤その他実習中に気づいたこと、感じたこと

イベントに参加されている方の真剣な姿を直で見ると、一般の方の自然に対する関心の強さを感じられた。小学生等も多く訪れているため、幼い頃に環境への意識を高めることのできる施設であった。

小鳥の森にはレンジャーの他に、ボランティアの方が多くいらっしゃった。多くの方々の協力があってこそ、イベントが成り立ち、小鳥の森の運営ができているといっても過言ではない。人間関係の優良さが仕事を進める過程で重要になってくる。

### ⑥次年度以降インターンシップに参加する学生に伝えたいこと

学生のうちに、職場に訪問することで、将来について考える時間を持つことができる良い機会である。また、現場を自分の目で見て、体験することで、よりいっそうその仕事についての理解が深まり進路決定に役立つだろう。

## いであ株式会社 東北支店

210510121 田中 寿枝(環境システムマネジメント専攻3年)

### 【要旨】

私は今回、いであ株式会社東北支店の環境調査グループで10日間の就業体験実習をさせていただきました。環境調査グループでは主に水域、大気、土壌を対象として環境調査をしています。実習内容は、現場研修と社内研修とがありました。現場研修では、海、河川、下水処理場など、多数の現場に同行させていただき、調査の見学と手伝いをさせていただきました。社内研修では、データ入力、粒度分析、緯度経度の換算、分析基準の検索などを行いました。以前から継続的に行われている仕事と、私の実習期間中に行われた仕事と、複数件の仕事に携わらせていただき、豊富な研修内容の中からたくさんのことを学びました。

実習期間：平成19年 8月20日(月)～ 8月31日(金)

指導担当責任者：環境調査グループ 齋藤昭二

実習月日(曜日)	担当係(者)等	実習内容
8月20日(月)	松浦さん 齋藤さん	業務内容の説明を受ける
8月21日(火)	齋藤さん	相馬港の波高計、波向流速計の保守点検 翌日の調査器具の準備
8月22日(水)	齋藤さん 阿部さん	下水処理場の放流水採取 阿武隈川で採水が適しているか現場検討
8月23日(木)	齋藤さん	調査結果のデータ入力 翌日設置する流速計などの下準備
8月24日(金)	松浦さん 齋藤さん	青森県十三湖沖に流速計を設置
8月27日(月)	齋藤さん	調査結果のデータ入力 報告書作成の一部手伝い
8月28日(火)	齋藤さん 阿部さん	相馬港の波高計、波向流速計の保守点検 GPSの調整
8月29日(水)	齋藤さん	報告書作成の一部手伝い
8月30日(木)	齋藤さん 阿部さん	鳴瀬川、北上川の現地踏査
8月31日(金)	齋藤さん	報告書作成の一部手伝い

### ①今回のインターンシップで実施したテーマ、課題

今回のインターンシップで私が設定したテーマは「環境調査の仕事内容を知る」ということです。私は将来、野外で環境を調査する仕事に就きたいと考えているので、どのような仕事なのか働く方々を見て勉強し、そして実際に体験して知りたかったのです。また、お世話になるからには積極的に行動したいという思いで臨みました。

### ②上記のテーマ、課題に対してどのような成果を得たか

社内での仕事から海や河川など多くの現場の仕事まで豊富な内容の研修をさせていただき、環境調査に関する仕事をいくつか知ることができました。

実習中にいろいろな現場に同行させていただけて、現場での仕事の流れや、プロがものを見る視点などを感覚として感じ取れたような気がします。採水の様子や測定の様子などを見学し、時には手伝わせていただきました。指導員の方々の現場の仕事を見学していると、作業の順番や、注意するポイントなどに気付かされる点が多く、とても勉強になりました。

海に流速計を設置に行った際は、アンカーなどが重くて私には持つことができず、やる気で補うことのできない力の面で不可能な仕事もあることを実感できました。しかし、指導員の方と共に流速計にアンカーやブイをつなげ設置できるかたちに準備したものが無事に設置し終えたときは達成感のような嬉しさを感じました。

社内研修では、データ入力や報告書作成の手伝いをしました。以前行われた調査の報告書を見せていただくと、極めて簡潔でありながら、とてもわかりやすく驚きました。

### ③実施したテーマ、課題の他に今回のインターンシップで発見したこと、得たこと

調査について2点、コミュニケーションについて1点、実施したテーマの他に気がついたことがあります。

まず、環境調査については天候に左右されることがあることがわかりました。河川水の採水の条件が通常時の水を採水ということでしたが、予定していた週があいにく雨続きで水が濁っており、採水に適さないため延期となりました。サンプリングの期限との兼ね合いもありますが、適切な状態のときに採水しないと結果が不正確になるので採水時期の判断も大事だと知りました。

それからモニタリングの重要性について考えさせられました。継続的に測定をすることは将来のためになることで、長期的な観測によって傾向が見えてくるのが環境にはあって、今現在、目に見えて何かが起こってなくても観測することが大事な仕事であると感じました。そして、事故もなく、的確に測定を続けられる技術がこの仕事をする方のすばらしい技術のひとつではないか、と思います。

それから、環境調査の仕事は、自然を相手に調査するものというイメージがありましたが、仕事をするということは人と人のかかわりが必ずあることがわかりました。



仕事の依頼者との連絡、調査のときに協力を得る人とのコミュニケーションなどを指導員の方がなさっているのを見て、ただ仕事をするだけでなく、共に働く人との繋がりも大切で、信頼関係が仕事をスムーズにしたりすることを深く感じました。コミュニケーションのとり方でこんなに良い雰囲気で行えるのは、とても素晴らしいことだと思いました。

また、自分が今やっている仕事のことを的確に答えられる力が必要だ、と実習中に思うことが多々ありました。コミュニケーション能力が重要でした。

#### ④ 今回のインターンシップは今後の学習や大学生活および今後の進路の選定を進める上で、どのような効果・影響を与えたか

インターンシップは将来私の希望する職種の仕事だったので、とても楽しく取り組むことができました。海に流速計設置に行った際はアンカーが重いという現実を目の当たりにしましたが、やはり環境を調査する仕事に就きたいという思いは変わらず、むしろ益々強くなりました。

インターンシップ中、指導員の方々のお話から深い知識と経験が感じられました。私はもっと基礎知識も専門知識も身につける必要を感じました。このような仕事に就くことができるように、インターンシップ中に学んだことを活かして勉強に取り組みたいです。

#### ⑤ その他実習中に気づいたこと、感じたこと

事前訪問時に現場に同行したいと希望しましたが、こんなにも多くの現場に同行させていただけで、とてもありがたく思いました。私の参加で現場入りが遅くなるにもかかわらず、連れて行っていただき、時間を割いて指導してくださることに本当に感謝いたします。現場では見ることで学ぶことがたくさんあって本当に勉強になりました。

#### ⑥ 次年度以降インターンシップに参加する学生に伝えたいこと

わからないことや疑問に思ったことは質問してください。とても的確な答えをいただけますし、自分が思っていたことは間違っていたり、新しく気が付くことも多いです。

お世話になる方々に感謝の気持ちを持って取り組んでください。そして、実習を楽しんでください。得られるものがたくさんあります。



←流速計を設置に行きます！出港直前  
(青森)



←流速計を無事に設置！  
(青森)



←透視度を調べています  
(阿武隈川)



←波高計と波向流速計  
(相馬港)

# 株式会社 KITZ 長坂工場

210510140 野尻 裕貴(環境システムマネジメント専攻3年)

## 【要旨】

今回のインターンシップで自身に課したテーマは「社員が会社にどのように貢献しているか」を学ぶというものだった。このテーマに対して学んだ点は、「怪我のない環境づくりに取り組む」「部署ごとにどうすればよりよい方法(利益)を得られるかを考える」「ひとつの部署にとどまらず他の部署との関係作りに励む」の三点を意識して仕事をしているということである。また、仕事に関しても、各々の課題の進行状況を毎朝毎夕は話し合うことでお互いの意識を高めあい、よりよくしようとする熱意というものも感じる事ができた。

社会に出たら、インターンシップで学んだことを念頭に置いて仕事をこなしていきたい。

実習期間:平成19年8月27日(月)~9月7日(金)

指導担当責任者:総務人事部 長坂総務人事グループ 鈴木 賀貴

実習月日(曜日)	担当係(者)等	実習内容
総務 8月27日(月)	鈴木さん	工場、バルブ製品等の説明
試験分析 Gr 月28日(火)	松岡さん 吉田さん	SEM, EDX を用いた応力腐食割れの特徴の理解 分析機器の説明、配管作業の手伝い
月29日(水)	畠山さん 三井さん	製品の耐久試験装置の組み立て 伝導弁関連の説明
月30日(木)	進藤さん	バタフライバルブの振動試験の手伝い
月31日(金)	千野さん 清水さん	蒸気試験の学習 組織観察
製造 Gr 9月3日(月)	長田さん 小林さん	安全衛生教育 製品の組み立て作業
月4日(火)	秋山さん	製品の組み立て作業
月5日(水)	秋山さん	製品の組み立て作業
月6日(木)	秋山さん	製品の組み立て作業
月7日(金)	鈴木さん	総括

## ①今回のインターンシップで実施したテーマ、課題

インターンシップで私自身に課したテーマは「社員が会社にどのような形で貢献しているか、社会に出る前に経験をつむ」というものでした。

## ②上記のテーマ、課題に対してどのような成果を得たか

「社員が会社にどのような形で貢献しているか」については、

- (1) 安全管理の徹底をすることで一人ひとりが怪我無く仕事を出来る環境づくりに取り組むということ

これは膨大な量の KY (危険予知) シートと呼ばれるものをランダムに取り出し、毎朝・毎夕それぞれのグループで数分話し合うという活動を通して知ることが出来た。

- (2) 会社(上層部)はその会社にあるすべての部署を完璧に把握していないということ

これは、それぞれの部署で考えていることであるらしく、例えば機材を買うときなど見積書などを通し会社からもらえる金額がある。それぞれの部署はもらったお金でやりくりをしないではいけなく、購入先とやりとりで出来るだけ低コストに抑えようとする。安く済ますことが出来れば、余った金額からその年の機材の修理や道具の購入に当てることもあるらしい。つまり、会社が機材を与えてくれるのではなく、自分たちである程度やりくりをするということを知ることが出来た。

- (3) 一つの部署だけで解決できない問題が起きてても他の部署と連携が取れるように、同じ部署だけで固まらず友達を多く作るということ

これには二つの意味があるらしく、一つは上記のままの意味で、一つはストレスをためないようにすることも兼ねている。ストレスをためると仕事にも支障をきたすため友達をたくさん作るよう心がけているということを知ることが出来た。

## ③実施したテーマ、課題の他に今回のインターンシップで発見したこと、得たこと。

今回、二つの部署で作業をさせていただいたが、最初の一週間は試験分析グループでの就業体験で、この部署では毎朝のミーティングで各個人の作業目標を言い、帰宅時のミーティングでは作業の進み具合を述べるということをしてきた。この活動をすることで連帯感というもの生まれグループ内の仕事効率が上がるように思えた。また、他部署からの試験分析依頼が来たときは、相手が満足するような結果・考察をし、それについて満足のいくものだったかを依頼側がパーセンテージで評価するという形をとることで、互いに高めあっているようであった。

## ④今回のインターンシップは今後の学習や大学生活および今後の進路の選定を進める上で、どのような効果・影響を与えたか

試験分析グループでの経験はこれからの研究室配属において、自分のためになるものであり、大学で学んだことを活かせる部署であるように思えたが、実際社会人になったら、今まで以上の深い考え・行動が必要となる。さらに責任というものもかかってくる。今回のインターンシップでは今後の進路の選定までは考えることが出来なかったが、良く考える、視野を広げるということの必要性を感じる事が出来た。

#### ⑤その他実習中に気づいたこと、感じたこと

現段階では自分は役に立っていないということを痛感した。インターンシップに行く前は「どんな仕事をするのだろうか。どんなことが自分には求められるのだろうか。」といった考えであったが、実際、試験分析グループでは教えていただくことばかりで、自分に求められている作業は装置の組み立てや、道具の運搬作業などの簡単な作業であった。分かっていたが、専門性を高めるということがどれほど大切かを再確認できた。

#### ⑥次年度以降インターンシップに参加する学生に伝えたいこと

私は、最初の一週間はいろいろなことを教えていただき、学校の授業と重なるような仕事というのも体験できましたが、あとの一週間は、朝からずっと同じ位置に立ち、流れてくるものを組み立てるだけの作業が続きました。その経験が無駄だとは思いませんが、その一週間でいろいろな企業が見れたのではないかと思うと、少し時間が勿体無かったなと感じます。インターンシップにいけば、そこでは何をしているのかを詳しく知ることが出来ます。しかし、その企業しか見えてこないという欠点もあります。

一人ひとりインターンシップを通して感じることは様々だと思いますが、私は仕事を体験するより様々な企業を見ることの方が大事だったように思います。進路について迷っているようなら学校の単位にはなりません、就職支援サイトなどで斡旋している1日、2日程度のインターンシップに行き、様々な企業を見比べ、その中から自分のしたい仕事を見つける方が自分のためになるように感じました。



図 私がつくっていたバルブ製品

福島大学共生システム理工学類  
平成 19 年度インターンシップ実施報告書

平成 19(2007)年 12 月 印刷・発行

編集：共生システム理工学類インターンシップ委員会

発行：福島大学共生システム理工学類

〒960-1296 福島市金谷川 1